

特別支援教育研究論文集

—令和7年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

特別支援学校(知的障害)における
「年間指導計画作成ツール」の実施と検証
— 小学部音楽科を事例として —

静岡県立掛川特別支援学校

教諭 松浦 正人

令和8年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

目 次

要旨	1
第1章 研究の背景と目的	2
第1節 研究の背景	2
1 特別支援学校（知的障害）における教科音楽における指導上の課題	2
2 本校における現状と課題	3
第2節 本研究の目的	3
第3節 研究仮説	3
第2章 年間指導計画作成ツールの開発（研究Ⅰ）	4
第1節 目的	4
第2節 方法	4
1 年間指導計画の分析	4
2 授業設計に関するプロセス分析	6
3 文部科学省著作教科書（☆本）の位置付け	7
第3節 結果	7
第4節 文部科学省著作教科書（☆本）の意義と構成	13
第3章 年間指導計画作成ツールの検証（研究Ⅱ）	15
第1節 目的	15
第2節 方法	15
1 研究対象および倫理的配慮	15
2 研究の進め方	15
第3節 結果	16
1 年間指導計画作成に関する結果	16
2 授業構想・授業実践に関する結果	21
第4章 全体（研究Ⅰ・研究Ⅱ）を通じた考察	23
第1節 「年間指導計画作成ツール」の有効性とその限界	23
第2節 学習活動が明示されにくかった要因	24
第3節 今後の活用に向けた課題と改善の方向性	25
第5章 まとめ	28
引用文献	30
付属資料	31
謝辞	50

要旨

本研究は、特別支援学校（知的障害）小学部音楽科において、学習指導要領に基づいた年間指導計画および授業づくりが、教員個々の経験や力量に委ねられている現状に着目し、その改善を目的として実施した実践研究である。特に、音楽を専門としない教員が多い学校現場において、学習指導要領の内容を授業実践へと具現化する手立てが十分整っておらず、授業構想に困難を感じている実態を課題として捉えた。

一方で、文部科学省著作教科書（以下、☆本）は、学習指導要領の内容を具体的な題材や学習活動として示しており、これらの課題を解決し得る教材であると位置付けた。そこで、本研究では、学習指導要領の内容に対応付けて編纂されている☆本に着目し、これを効果的に活用することで、年間指導計画作成から授業構想までを支援する「年間指導計画作成ツール」を開発し、所属校の小学部において試行的に活用した。

ツール導入後、作成された年間指導計画の内容分析および教員を対象とした質問紙調査を通して、その活用状況と効果を検証した。その結果、年間指導計画における☆本題材の使用割合が大きく増加し、題材選択において学習指導要領を意識する傾向が高まったことが明らかとなった。また、授業構想や授業準備の場面において、☆本や教科書解説を参照する教員が増え、音楽を専門としない教員にとっても授業の見通しを持ちやすくなったことが示された。さらに☆本を介して授業づくりを検討する機会が生まれ、教員間で学習のねらいや活動イメージを共有しやすくなった点は、音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの観点からも意義のある変化であると考えられる。

一方で、年間指導計画には題材名は明記されているものの、具体的な学習活動まで十分に記載されていない事例も多く、題材選択後の活動構想に難しさを感じている教員が少なくないことも示唆された。これを受けて本研究では、☆本の教科書解説を基に学習活動を整理し、学習指導要領との対応関係を可視化した「音楽科学習段階表」を新たに作成した。これは、題材名に依拠するのではなく、「どの内容を、どのような活動で行うか」という視点から年間指導計画や授業構想を行うための一つの試案である。

以上のことから、「年間指導計画作成ツール」は、☆本を媒介として学習指導要領と授業実践を結び付け、音楽を専門としない教員にとっても授業づくりを考える基盤を形成する役割を果たしたといえる。本研究で得られた知見は、小学部音楽科にとどまらず、☆本が整備されている他教科や中学部への転用可能性を有するものであり、特別支援学校における教科指導の計画作成支援の在り方に示唆を与えるものである。

キーワード：特別支援学校 音楽科 年間指導計画作成ツール 文部科学省著作教科書
授業構想

第1章 研究の背景と目的

第1節 研究の背景

1 特別支援学校（知的障害）における教科音楽における指導上の課題

平成29年の特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（以下、特別支援学校高等部学習指導要領も含めて、「学習指導要領」という。）改訂では、予測困難な時代を生き抜くための「生きる力」を育むための各教科等の資質・能力を明確にした教育課程編成が重視され、その方策の一つとして教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」が導入された。中央教育審議会答申（2016）では、「各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設置する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価していくことが求められる。」とあり、各学校が学習指導要領に基づき各校の学校教育目標を実現するための教育課程を系統的に構築することの重要性が指摘されている。特別支援学校においても、学習指導要領に基づいた「段階的・発展的・系統的」な指導が求められている。

一方で、知的障害特別支援学校においては、授業の実践段階において、生活単元学習や作業学習などの「各教科等を合わせた指導の形態」で授業を行うことができ、様々な実践上の工夫がされてきている。この指導の形態ごとの授業の実践状況を把握した全国特別支援学校知的障害教育校長会（2024）の調査報告によると「音楽科」については、週時程上の「音楽」として位置付けて授業を行う「時間の指導」として実施されている学校が多いことがわかる。これは、教科音楽は、歌唱・器楽・音楽づくり・身体表現・鑑賞などの学習活動そのものが学習内容となる教科であり、児童生徒個々の学習課題に即した学習活動を計画し、展開されやすいことから、教科別の指導として位置付けられることが多いと考えられる。

このように音楽の時間の指導として、週時程上実施されているため、学習指導要領に示されている音楽の目標や内容に基づく授業実践が比較的行きやすい教科である。

また、学習指導要領の音楽の内容には、児童生徒の発達の段階等を踏まえた歌唱教材を取り扱うこととされており、「共通教材」が示されている特徴がある。これらの共通教材は、小学部段階であれば6年間、中学部及び高等部段階であれば3年間を見通して、年間指導計画に位置付けて、計画的に取り扱う必要のある歌唱教材である。また、これらの歌唱教材は、小学校等との交流及び共同学習や地域の行事に参加する場合にも、特別支援学校の児童生徒と小学校等との児童生徒が、共同して、音楽活動ができる一助になることから、歌唱教材を適切に学習していくことは、インクルーシブ教育システムを充実させる上で、重要な意義を有する。

しかしながら、特別支援学校における授業実践においては、年間指導計画の作成から授業構想に至るまでの過程が個々の教員の経験等に委ねられているという現状があり、これらの歌唱教材を適切に指導計画に位置付けていくことを意識した年間指導計画の立案などについては十分ではなく、課題があると考えている。また、音楽科においてはカリキュラム・マネジメントの視点から、学習指導要領を基に題材を選定し、それを基に授業を構想していくという実践事例が少ないということについても課題として挙げられる。

教科音楽では、文部科学省著作教科書が従前より整備されており、学習指導要領の内容に即した歌唱教材や日々の授業に位置付けるうえで有用な教材が存在している。一方で、☆本を活用した年間指導計画の作成や授業実践についての蓄積は十分でないことも課題として考えられる。

例えば、先行研究である武富(2022)による、全国の特別支援学校の教員544名に対して抽出して実施した調査によると、☆本を実際に使用している教員は全体の30%未満であった。

2 本校における現状と課題

本校における音楽科の指導では、年間指導計画から授業内容を構想する際の過程において、教員個人の経験や過去の実践に依拠した授業が中心となっている。とりわけ音楽科を専門としない教員からは、「音楽の授業で何をしてよいかわからない」といった声が聞かれることもあり、学習指導要領を踏まえた年間指導計画の作成や授業構想に困難を感じている現状がある。

また、本校では☆本が選定されていないことがあり、年間指導計画作成の際には、小学校の題材を中心に扱うことが多くあった。そのため、学習指導要領の内容について、小学部であれば6年間、中学部、高等部であれば3年間を見通した年間指導計画の作成や授業構想に基づく指導が行われにくい現状である。このようなことから、学習指導要領に基づく年間指導計画の作成や授業構想を支えるための具体的な教材の選定や手立てを支援していくことが課題である。

第2節 本研究の目的

本研究では、学習指導要領に基づく年間指導計画の作成や授業構想を支援するための具体的な手立てが学校現場において十分に共有されていないという課題を踏まえ、学習指導要領の内容に応じて作成された☆本を活用した「年間指導計画作成ツール」の開発及び検証を行うことを目的とする。

ここでいう検証とは、開発したツールを学校現場において実際に活用し、その有効性や運用上の課題を明らかにすることであり、これらを通して、知的障害教育における音楽科のカリキュラム・マネジメントの充実に資することを目指す。

第3節 研究仮説

本研究では、学習指導要領の内容に基づき、☆本を位置付けた「年間指導計画作成ツール」を開発することにより、年間指導計画および授業計画の作成を支援できると仮定する。

さらに、開発したツールを学校現場において活用することにより、音楽科の専門性の有無にかかわらず、教員が学習指導要領に即した年間指導計画および授業計画を構想しやすくなり、以下のような変化が生じると仮定する。

- ・年間指導計画に☆本を取り入れる割合が増加する。
- ・指導計画における学習指導要領との対応関係がより明確になる。
- ・音楽が専門でない教員においても、授業計画作成に対する困難感が軽減される。
- ・教材研究や☆本への理解が促進される。

第2章 年間指導計画作成ツールの開発（研究Ⅰ）

第1節 目的

本研究では、特別支援学校（知的障害）小学部音楽科において、学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成から授業構想に至るまでの過程を支援することを目的として、「年間指導計画作成ツール」を開発する。そのために、所属校における年間指導計画および授業構想の実態を分析し、課題を明らかにしたうえで、☆本を活用したツールの試作を行う。

第2節 方法

1 年間指導計画の分析

所属校の年間指導計画において扱われている項目は、学習指導要領音楽科「A表現」の中の「歌唱」「器楽」「身体表現」の3分野と「B鑑賞」の1領域および題材名であった。授業で行う活動が簡単に記載されている学年もあったが、統一されていなかった。いずれの学年のものも、学習指導要領の内容についての記載はなかった。

表1は、令和5年度における小学部各学年および小学部全体の☆本題材使用状況を示したものである。小学部全体では全119題材のうち、☆本題材は53題材であり、使用率は0.445であった。すなわち令和5年度の年間指導計画において、☆本題材は全体の半数に満たない割合で使用されていたことがわかる。

学年別に見ると、低学年において☆本題材が比較的多く用いられていたが、第3学年以降では使用率が0.35前後に低下しており、第4学年および第5学年ではいずれも0.278と☆本題材の使用割合が低い状況が確認された。

以上のことから令和5年度における☆本題材の使用状況には学年による偏りが見られ、特に中・高学年において☆本題材が十分に活用されていなかった実態が明らかとなった。

なお、令和5年度の小学部1年から6年までの年間指導計画（音楽）は表2で示す。

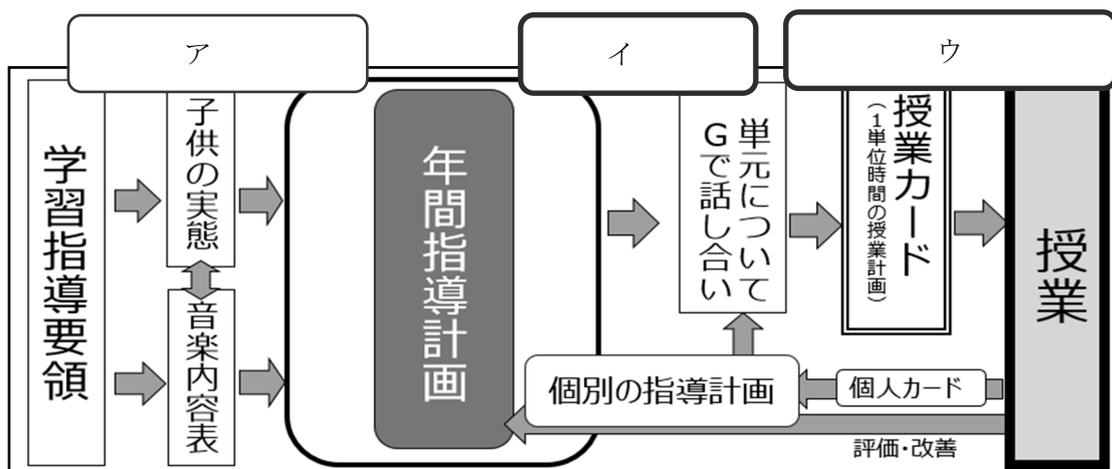
【表1 令和5年度における所属校小学部各学年および全体の☆本題材使用状況】

	☆本	その他※	全題材数	使用率
1年	19	7	26	0.7308
2年	12	10	22	0.5455
3年	7	13	20	0.35
4年	5	13	18	0.2778
5年	5	13	18	0.2778
6年	5	10	15	0.3333
全体	53	66	119	0.4454

※その他… 小学校検定教科書、童謡歌集、行事の歌等

2 授業設計に関するプロセス分析

所属校における学習指導要領から1単位時間の授業までのプロセスを図1に示す。



【図1 学習指導要領から1単位時間の授業に至るまでのプロセス（改善前）】

図1におけるア～ウのプロセスは次のとおりである。

- ア 当該年度の反省を受け、学習指導要領や音楽内容表（所属校で独自に作成している題材一覧）をもとに児童の実態を考慮して次年度の年間指導計画を作成する。
- イ 年間指導計画に記載されている題材名と分野名をもとに授業担当教員が単元案を作成し、学年集団で単元のすすめ方を決める。
- ウ 単元の話し合いから1単位時間の授業計画（授業カード）を作成し授業を行う。

プロセスを見てみると、年間指導計画作成の細かいプロセスが明確でないことがわかる。したがって、その作成過程を細分化することが有効であり、これにより学習指導要領に基づいた年間指導計画の作成や授業設計の改善につながることを期待できる。

授業設計までのプロセスと1)の結果からツール開発に必要な視点と工夫できる点について次の表3のように整理し、細分化を図った。

【表3 ツール開発に必要な視点】

ツール作成のポイント	本ツールでの工夫点
a 学習指導要領を根拠に年間指導計画を作成	題材を☆本から選択する。
b 年間指導計画作成者の意図が可視化できる	学習指導要領の内容と指導内容が入力できる。
c 実施した内容、題材の積み上げが確認できる	実施した学習指導要領の内容や☆本の題材の一覧に色が付く。
d 授業を構想する上で参考にできるものがある	☆本や☆本の教科書解説を活用する。
e 単元の評価を記録することができる	3段階で評価できるセルを組み込む。

「a 学習指導要領を根拠に年間指導計画を作成」とは、個々の教員が過去の年間指導計画、検定教科書などを参考に各々悩みながら計画を作成している。学習指導要領を根拠に作成された☆本から題材を選択することで、学習指導要領の内容に沿った年間指導計画の作成を容易にすると考える。

「b 年間指導計画作成者の意図が可視化できる」とは、年間指導計画が題材と領域のみの記載であることが多く、学習指導要領のどの内容を授業で行うか、単元のねらいは何か分かりづらく、授業担当がそれぞれの解釈で単元を考えることになっていた。そのため、学習指導要領のどの内容をねらうか、単元のねらいは何かを記入できることで、年間指導計画作成者の意図がわかるようにする。

「c 実施した内容、題材の積み上げが確認できる」とは、今まで学習指導要領の内容の何を学んできたか、どの題材を扱ったかがわかるようにすることである。そのことで、扱っていない学習指導要領の内容がわかり、年間指導計画作成時に活用することで、未履修を防ぐ役割になると考える。

「d 授業を構想する上で参考にできるものがある」とは、☆本の題材を使用することで、☆本や☆本解説を使用して授業を構想しやすくすることである。「音楽の授業を構想することが難しく、何をやっていいかわからない」と度々相談されることがあるため、授業実践例や教材・教具が記載されている☆本や☆本解説を活用することで、授業構想の一助になると考える。

「e 単元の評価を記録することができる」とは、扱った題材と学習指導要領の内容が履修だけで終わらず習得できたか確認できるようにすることである。授業終了後に単元の評価を行い、次年度の年間指導計画に生かすようにする。

3 文部科学省著作教科書（☆本）の位置付け

本研究における「年間指導計画作成ツール」の開発にあたり、☆本を学習指導要領に基づいた年間指導計画作成および授業構想を支援するための基礎資料として位置付けた。

☆本は、特別支援学校小学部および中学部の学習指導要領に示された教科の内容を踏まえて編纂されており、各題材が学習指導要領のどの内容に対応しているかが教科書解説に明示されている。このため、年間指導計画作成時において、学習指導要領の内容と題材とを対応付けて検討することが可能である。

また、☆本には教科書解説が用意されており、各題材について学習指導要領との関連、題材設定の意図、学習活動の例、指導上の留意点などが整理されている。これらは、音楽を専門としない教員にとっても授業構想の手がかりとなる情報であり、年間指導計画から授業計画に至る過程を支援する資料として活用可能であると判断した。

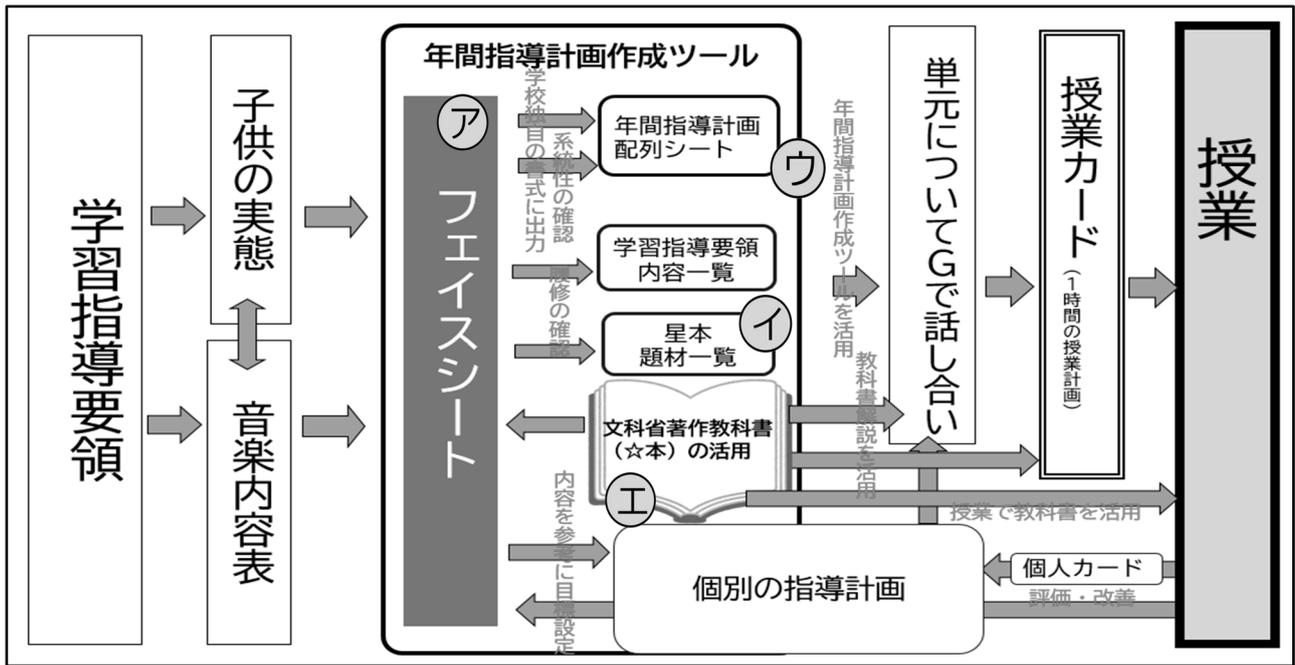
以上の理由から、本研究では、学習指導要領と題材との対応関係が明確であり、かつ授業構想に必要な情報が整理されている☆本および教科書解説を、「年間指導計画作成ツール」を構成するうえでの重要な資料として位置付けた。

第3節 結果

年間指導計画の分析および授業設計のプロセスの検討を通して抽出した課題を踏まえ、年間指導計画作成から授業構想までを支援することを目的として、「年間指導計画作成ツール」を開発した。本節では、開発したツールの構成と特徴について示す。

年間指導計画作成ツールは、年間指導計画作成の手順をより細分化したものである。図1の年間指導計画の位置に、「フェイスシート」「年間指導計画」「学習指導要領内容一覧」「☆本題材一覧」「年間指導計画配列シート」でツールを構成した。

年間指導計画作成ツールの全体構成を図2に示す。



【図2 年間指導計画作成ツールの全体構成】

ア フェイスシート（図3 全体像は付属資料A参照）

フェイスシートは、単元や題材のねらいを学習指導要領の内容に基づいて整理するためのシートである。本シートでは、学年や段階、分野・領域を選択した上で、使用する☆本の題材および該当する学習指導要領の内容を対応付けて記入できる構成とした。これにより、年間指導計画作成の段階で、学習指導要領の内容を根拠に☆本の題材を位置付けることが可能となった。また、☆本の題材を扱うことで、授業構想時に☆本や教科書解説を参照しやすくなり、授業づくりや教材づくりの手がかりを得やすい構成となっている。

一番上のエリアには、学年の基本情報と該当する目標を選択する。

学年の基本情報を入力

R7年度 フェイスシート							
学部・学習グループ	学年	教科名	使用教科書	作成者			
小学部	○	小学部音楽		○○ ○○			
音楽科目標：	育成を目指す 資質・能力の 具体	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 ・感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。【思考・判断・表現】 ・音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。【学びに向かう人間性】 			単元の達成状況		
年度未だに目標	2小	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 ・音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。【思考・判断・表現】 ・音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。【学びに向かう人間性】 					
段階の目標	段階	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 ・音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。【思考・判断・表現】 ・音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。【学びに向かう人間性】 					
		(学習活動)	教科書	題材	内容(学習指導要領を要約して記載)	学級	中学部
		(あいさつ)					

当該学年の段階をプルダウンから選択

学習指導要領の目標等が表示される

単元名とメインとなる活動を記入する。

【図3 フェイスシート（項目ごとの抜粋：目標の選択）】

通年で行われる活動を記入

年間を通して行う学習活動 (授業の最初と最後に毎回同じ活動があれば記載)		教科書	題材	内容(学習指導要領を要約して記載)	小学部	中学部
(あいさつ)						
(リトミック)		身体表現 共通事項	どうぶつに__なって	ウ__の音や音楽を聴いて手足や身体全体を自然に動かす 思ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階		
(共通事項)		共通事項	色やイラストを用いた絵譜	知イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語		
50 年間総授業時数						
月	時数	<分野>「単元名」	学習活動	教科書	題材	内容(学習指導要領を要約して記載)
4	4	<歌>「みんなであうおう」	(友達と声を合わせて歌う) (運動会で歌う歌を練習する)	小2段階 行事・交流	校歌 ゴーゴー	ウ__教師や友達と一緒に歌う ※行事や交流及び共同学習で歌う歌やダンスの練習
5	5	<器>「4びょうしてたごう」	(手拍子で4拍子を打つ)	器楽☆☆	てを__たたきましよう	ウ__の節奏を聴き模倣をして演奏する

それぞれの期間で行われる単元について記入

【図3 フェイスシート（項目ごとの抜粋：単元や学習活動の記入）】

単元で使用する☆本の題材をリストから選択する。

分野・領域で分類された教科書の段階を選択すると、☆本で扱っている題材が選択できるようになる

題材を選択すると、教科書解説に示されている、その題材で扱う学習指導要領の内容が選択できる。

<分野> 単元名を記載	メインとなる学習活動を記載	主に音楽内容表題材例(星本)より題材を選択する	題材の内容より主にねらうものを選択する
1 4 <歌><作>「音楽に合わせてうたおう」	(歌詞のリズムに合わせて歌う) (歌詞に合わせて手拍子)	歌唱☆☆ おしょうがつ 小2段階 うれしい__ひなまつり 音楽づくり りずむを__くみあわせよう	イ__の曲名や歌詞... ア__好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたい イ__の音のつなげ方の特徴に気付く
2 4 <器>「みんなでえんそうしよう」	(パートに分かれて合奏する) (ディズニーの曲を聴く) (卒業式の歌を歌う)	器楽☆☆ ミッキーマウス__マーチ 鑑賞☆☆ ほしに__ねがいを 音楽遊び こその__ごうしん すりーたーず わるつ みずは__つよの__あながかい くわねと__ほるか 歌唱☆☆ あめふり__まのこ 器楽☆☆ ほしに__ねがいを はくらよ 音楽づくり あかたずん__らんち しーや__ぼー	イ__のリズム、速度や強弱の違いに気付く イ__身近な人の演奏を見たり聴いたりして、好きな音や楽器の音を見付け 共ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、力 共イ 絵譜や色を用いた楽譜、休符、記号や用語

学習指導要領の内容より

☆本の題材に以外を取り扱う場合は、偶数の行に段階と題材、目標を記入する。
 こちらについても段階をリストから選択することで学習指導要領の内容リストが
 選択できるようになる。

題材名を打ち込む

歌唱☆☆	おしょうがつ	イ_④曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く	
小2段階_	↓れしい_ひなまつり	ア_好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いた	↓
		ア_好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつ	
小1段階_	B鑑賞_ア鑑賞	イ_⑦曲の特徴的なリズムと旋律に気付く	
小2段階_	A表現_ア歌唱	イ_④曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く	
小2段階_	A表現_イ器楽	ウ_⑦範唱を聴いて曲の一部分を模唱する	
小2段階_	A表現_ウ音楽づくり	ウ_④自分の歌声に注意を向けて歌う	
小2段階_	A表現_エ身体表現	ウ_⑦教師や友達と一緒に歌う	
小2段階_	B鑑賞_ア鑑賞	ウ_④自分の歌声に注意を向けて歌う	
小3段階_	A表現_ア歌唱		
小3段階_	A表現_イ器楽		
小3段階_	A表現_ウ音楽づくり		
小3段階_	A表現_エ身体表現		
小3段階_	B鑑賞_ア鑑賞		

内容表以外のものをから題材を選択したり、目標が選択肢になかったりした場合は題材名を黄色のセルに記入し、プルダウンから選択する

【図3 フェイスシート（項目ごとの抜粋：題材と内容の選択）】

イ 学習指導要領内容一覧（図4）および☆本題材一覧（図5）

学習指導要領内容一覧は、小学部1段階から中学部2段階までの音楽科の内容を一覧で確認できるようにしたものであり、☆本題材一覧は、☆本に掲載されている題材を分野・領域および題材ごとに整理した一覧である。本ツールでは、フェイスシートに入力した内容に応じて、該当する学習指導要領内容一覧および☆本題材一覧に色が付き、履修を確認することができる。これにより、今まで扱った内容や題材を把握しやすくなり、次年度以降の年間指導計画作成時の参考資料として活用することが可能である。

全体像は付属資料B、C参照。

●学習指導要領の各段階の内容一覧表

		小1段階	小2段階	小3段階
A 歌 唱	ア__音楽を自分なりに表す		ア__好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつ	ア__歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつ
	イ__音や音楽に気付く		イ__②曲の特徴的なリズムと旋律に気付く イ__④曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く	イ__②曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わりに気付く イ__④曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わりに気付く
	ウ__②音や音楽を感じて体を動かす		ウ__②範唱を聴いて曲の一部分を模唱する	ウ__②範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする
	ウ__④音や音楽を感じて楽器の音を出す		ウ__④自分の歌声に注意を向けて歌う	ウ__④自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う
	ウ__⑥音や音楽を感じて声を出す		ウ__⑥教師や友達と一緒に歌う	ウ__⑥教師や友達と一緒に声を合わせて歌う
イ 器 楽	ア__音楽を自分なりに表す		ア__身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする	ア__器楽表現について知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつ
	イ__音や音楽に気付く		イ__②拍や曲の特徴的なリズムに気付く イ__④楽器の音色の違いに気付く	イ__②リズム、速度や強弱の違いに気付く イ__④演奏の仕方による楽器の音色の違いに気付く
	ウ__②音や音楽を感じて体を動かす		ウ__②範奏を聴き模倣をして演奏する	ウ__②簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする
	ウ__④音や音楽を感じて楽器の音を出す		ウ__④身近な打楽器を演奏する	ウ__④身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する
	ウ__⑥音や音楽を感じて声を出す		ウ__⑥教師や友達と一緒に演奏する	ウ__⑥教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する
A 表 現 ウ 音 楽 づ く り	ア__音楽を自分なりに表す		ア__②音遊びを通して音の面白さに気付く ア__④音や音楽で表現することについて思いをもつ	ア__②音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりする ア__④どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもつ
	イ__音や音楽に気付く		イ__②声や身の回りの様々な音の特徴に気付く イ__④音のつなげ方の特徴に気付く	イ__②声や身の回りの様々な音の特徴に気付く イ__④簡単なリズム・パターンの特徴に気付く
	ウ__②音や音楽を感じて体を動かす		ウ__②音を選んだりつなげたりして表現する	ウ__②音を選んだりつなげたりして表現する
	ウ__④音や音楽を感じて楽器の音を出す		ウ__④教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる	ウ__④教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽を作る

【図4 学習指導要領内容一覧】

●各段階で扱う☆本の題材一覧（色がついたものは過去にっ取り扱った題材）

段階		
小音1段階	小音2段階	小音3段階
がっきのおとあて	さあ__みんなで	はるの__かぜ
すずの__きよく	いっぼんぼし__こちょこちょ	はるが__きた
まじっく__まんぼ	すうじの__うた	どじょっこ__ふなっこ
すてきな__はーぶ	たこにゅうどう	パレード
かばさを__ならそう	はるの__おがわ	たのしいね
いっしょに__ならそうよ	あまだれ	にじ
ちゅうりっぷ	あめの__おとを__ならして__みよう	さんぼ
こたりの__うた	あめふり__すいぞくかん	せんろは__つづくよ__どこまでも
こいのぼり	ぶーるで__ちゃっぶん	おどろう__たのしい__ポーレチケ
おひさま__きらきら	みなみの__しまの__はめはめは__だいおう	ぼくの__ミックスジュース
せんせいと__おともだち	せんたく	だ・る・ま・さんが__おどった
おべんとうばこの__うた	ばばばの__うた	あさまで__サンバ

【図5 ☆本題材一覧】

ウ 年間指導計画配列シート（図6）

年間指導計画配列シートは、各学年で作成したフェイスシートの内容を自動的に一覧化し、学年間の系統性を確認できるようにしたものである。本シートでは、小学部1年生から6年生までの年間指導計画を縦断的に把握できる構成とした。

これにより、学年間で扱う内容や題材の重複や偏りを確認しながら、年間指導計画を作成することが可能である。

フェイスシートで入力した内容が年間指導計画に合わせた書式に転記

学年	学期	活動	教材	学習目標
1	4	(クリスマスに変わる曲を聴く)	小2段階 おもいの木他	イ_身近な人の演奏に触れて好きな音色や楽器の音を見付け
		(歌詞のリズムに合わせて歌う)	歌唱☆☆ おしよがつ	イ_④曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く
		(歌詞に合わせて手拍子)	小2段階 うれしい_ひなまつり	ア_好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたい
2	4	(リズムに合わせて演奏する)	音楽☆☆ ミッキーマウス_マーチ	イ_⑦リズム、速度や強弱の違いに気付く
		(ディズニーの曲を聴く)	鑑賞☆☆ ほしに_ねがいを	イ_身近な人の演奏に触れて好きな音色や楽器の音を見付け
		(卒業式の歌を歌う)	小2段階 きみがよ	ウ_④自分の歌声に注意を向けて歌う

【図6 年間指導計画配列シートによる学年間の系統性の可視化】

学習の評価

単元終了後に児童生徒の目標の達成状況から3段階で評価を行う

歌唱☆☆	おしよがつ	イ_④曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く	◎達成
小2段階	うれしい_ひなまつり	ア_好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたい	●不十分
	音楽づくり	りずむを_くみあわせよう	○概ね達成
器楽☆☆	ミッキーマウス_マーチ	イ_⑦リズム、速度や強弱の違いに気付く	○概ね達成
鑑賞☆☆	ほしに_ねがいを	イ_身近な人の演奏に触れて好きな音色や楽器の音を見付け	
小2段階	きみがよ	ウ_④自分の歌声に注意を向けて歌う	◎達成 ○概ね達成 ●不十分

プルダウンから選択

【図3 フェイスシート（項目ごとの抜粋：学習の評価）】

第4節 文部科学省著作教科書（☆本）の意義と構成

年間指導計画作成ツールは、☆本（音楽科）をもとに作成されている。☆本は文部科学省が発行している知的障害者のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の小学部及び中学部用著作教科書である。特別支援学校学習指導要領で示す教科の内容を一通り学習できるように構成されている。

☆本には歌詞やイラストに加え、振り付け、絵譜、楽譜など、児童生徒が授業で直接教材として使用できる要素が多く盛り込まれている。また、特別支援学校の児童生徒を対象とする観点から、説明文などを必要最小限にとどめ、活動が視覚的に理解しやすいようにはっきりした挿絵が使用されている。これにより、教科書の挿絵を拡大して使用したり、教材作成の参考資料としたりすることも容易である。

小学校・中学校音楽科では教育芸術社と教育出版が検定教科書を発行している。☆本の題材とこれら検定教科書の題材を比較したところ、小学部の☆本には206曲収録されており、そのうち教育芸術社の検定教科書と重複する題材は42曲、教育出版と重複している題材数は32曲であった。中学部では、収録題材140曲のうち教育芸術社と重複する題材は28曲、教育出版と重複するものは17曲であった。さらに小学校教科書まで範囲を広げると、教育芸術社と重複する題材は50曲、教育出版と重複する題材は41曲となり、学校間交流や居住地校との交流でも共通の題材を扱える可能性が高いことが明らかとなった。

また、☆本には教科書解説が用意されている。解説には付録として「☆本の題材と特別支援学校小学部・中学部学習指導要領との関係」が一覧表で示されており、各題材が学習指導要領のどの内容に対応しているか、一目で確認できる。（A表現「ア 歌唱、イ 器楽、ウ、音楽づくり、エ 身体表現」 B鑑賞）

教科書解説の題材のページは「1 本題材に関する学習指導要領の主な内容」「2 題材について」「3 学習指導例」「指導上の留意点」から構成されている。その題材が主に学習指導要領のどの内容を学ぶように考えられているか、どのような意図で題材として選定されたか、どのように指導すればよいか、具体的な留意点は何かなどが1ページに簡潔に整理され、音楽科の指導に不安を抱える教師にとって有用な手がかりとなる。教科書解説の題材ページの活用例を図7で示す。

例：おんがく☆「せんせいとおともだち」



解説の活用

- A 表現
 ア 音楽遊び
 (ア) 思考力、判断力、表現力等
 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり致したりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。
 (イ) 知識
 表現する音や音楽に気付くこと。
 (ウ) 技能
 ① 音や音楽を感じて体を動かす技能を身に付けること。
 ② 音や音楽を感じて声を出す技能を身に付けること。
- B 鑑賞
 ア 音楽遊び
 (ア) 思考力、判断力、表現力等
 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする事。
 (イ) 知識
 聴こえてくる音や音楽に気付くこと。

具体的な活動例や配慮事項を参考に授業のすすめ方や教材を考える



教材としてペープサート（生成AIで画像作成）

音の速さ、聴く環境

児童生徒の表出を待つ

例：音楽☆☆☆☆「サウンド・オブ・ミュージック」



解説の活用

- A 表現
 ア 歌唱
 (ア) 思考力、判断力、表現力等
 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気合いに合った表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図を持つこと。
 (イ) 知識
 ① 曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わり。
 (ウ) 技能
 ① 範唱を聴いて歌ったり、歌詞を見て歌ったりする技能
- B 鑑賞
 ア 鑑賞
 (ア) 思考力、判断力、表現力等
 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲の演奏の良さなどを見いだして聴くこと。

【教科書解説（抜粋と一部省略）】

3 学習指導例

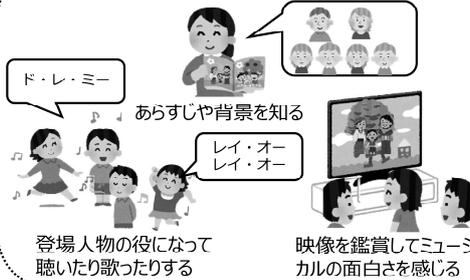
(2) (3) 生徒がマリアと子供に分かれ、場面を再現するなどして、場面を想像しながら曲聴けるようにする。拍子を感じられるように体を動かしながら聴いたり、歌い方のまねをしたりするように促す。

(4) DVDを用いて映像を鑑賞する時間を設け、ミュージカルの面白さを生徒が感じることができるようにする。

4 指導上の留意点

○教科書の挿絵等を活用し、あらすじや物語の背景を説明できるとよい。

音楽的な見方・考え方を働かせる



【図7 ☆本教科書解説における題材ページの活用例】

第3章 年間指導計画作成ツールの検証（研究Ⅱ）

第1節 目的

第3章では、第2章で開発した「年間指導計画作成ツール」を所属校に導入し、その活用状況および有効性を、年間指導計画作成段階と授業構想・授業実践段階の両面から検証することを目的とする。

具体的には、年間指導計画作成において、本ツールがどのように活用され、題材の位置付けや計画内容にどのような変化が生じたのかを明らかにする。あわせて、作成された年間指導計画をもとにした授業構想および授業実践の過程において、教員がどのような資料を参照し、どのような困難や成果を感じているのかを検討する。

これらを通して、「年間指導計画作成ツール」が、音楽を専門としない教員を含む学校現場において、学習指導要領に基づく年間指導計画作成および授業づくりをどの程度支援し得たのかを明らかにする。

第2節 方法

1 研究対象および倫理的配慮

本研究の実施にあたっては、研究協力者の人権及びプライバシーの保護に十分配慮した。質問紙調査は任意とし、回答しないことによる不利益が生じないことを事前に説明した。回答は無記名とし、個人が特定されることのないよう配慮した。また、得られたデータは本研究の目的以外には使用せず、研究終了後は処分することとした。

なお、本研究は校内における教育実践の一環として実施し、研究内容および方法については、所属校の管理職の了承を得た上で行った。

2 研究の進め方

本研究では、「年間指導計画作成ツール」の導入から活用、検証まで段階的に行うため、研究をⅠ期からⅢ期までの三段階に分けて実施した。

（1）Ⅰ期 年間指導計画作成と周知

Ⅰ期では、「年間指導計画作成ツール」を用いた年間指導計画の作成およびツールの周知を行った。具体的には、次年度の年間指導計画作成に先立ち、各学年の音楽科年間指導計画作成担当者に対して、本ツールの目的および使用方法について説明を行い、ツールを活用した次年度の年間指導計画（音楽科）の作成を依頼した。あわせて、小学部の全教職員を対象に「年間指導計画作成ツール」の概要説明を行い、その有用性を示すとともに、活用を促した。その際、☆本の特徴や活用の意義についても説明を行った。また、研究を進めるにあたり、音楽科の☆本および教科書解説が十分に活用できる環境を整えるため、☆本の整備を行った。

(2) II期 授業構想・授業実践

II期では、I期で作成された年間指導計画および「年間指導計画作成ツール」を活用し、実際の授業構想および授業実践を行った。各学年の音楽科担当教員には、年間指導計画作成ツール、またはツールを用いて作成した年間指導計画を参考にしながら授業を実施するように依頼した。さらに音楽科の授業づくりに関する理解を深めることを目的として、外部講師を招聘し、学習指導要領および☆本の活用を中心とした講演会および学習会を開催した。

(3) III期 検証・改良

III期では、ツールの活用状況および成果を検証するため、小学部教員を対象に質問紙調査を実施した。音楽科の年間指導計画作成者5名に対しては、前年度の3月に、年間指導計画作成に関する質問紙調査を行った。また、各学年の音楽科授業担当者に対しては1学期末および2学期末の2回に分けて、「年間指導計画作成ツール」および☆本の活用状況に関する質問紙調査を実施した。あわせて、質問紙調査の自由記述および個別の聞き取りの内容をもとに、ツールの改善点や今後必要となる支援の在り方について分析を行い、その結果を踏まえて不足している点を補うための改良を行った。

第3節 結果

本節では、「年間指導計画作成ツール」および☆本の活用に関して得られた結果を示す。まず、年間指導計画作成ツールを用いて作成された音楽科年間指導計画の内容について分析し、ツール導入による変化を客観的に整理する。次に、小学部教員を対象として実施した質問紙調査の結果を示し、年間指導計画作成時の実態や困難感、ならびに年間指導計画作成ツールの使用状況とその受け止めについて整理する。

以下では、はじめに年間指導計画の分析結果を示し、その後質問紙調査の結果について項目ごとに示す。

1 年間指導計画作成に関する結果

本項では、「年間指導計画作成ツール」を活用して作成された年間指導計画の内容の変化と、年間指導計画作成者を対象とした質問紙調査の結果から、ツール導入の成果を明らかにする。

本校の年間指導計画作成のスケジュールは、前年度に当該学年の教科の年間指導計画作成担当者が計画案を作成し、次年度に入り学年主任と新しい教科の担当者がもう一度チェックして正式に運用することになっている。「年間指導計画作成ツール」開発後、前年度のうちに小学部1年から5年の教科担当者にツールを使用した年間指導計画作成を依頼した。最新刊の☆本が学校に存在していなかったため、年度途中に学部で☆本と解説を1セット購入してもらった。年間指導計画の参考にゼロから年間指導計画の題材を選択するのは難しいので、今まで小学部で年間指導計画作成時の題材選択の目安として整理した音楽内容表を改訂し、☆本の題材で再編集した。(図8 全体像は付属資料D参照)

編集では、所属校の音楽専門の教師数名で☆本の題材に目を通しながら、学校の実態に合うように検討を重ねた。今までの実践を大幅に変更しないような配慮も行った。表3は、

「年間指導計画作成ツール」を使用して作成された令和7年度の年間指導計画を全学年で一覧にしたもの、表4は「年間指導計画作成ツール」導入前（令和6年度）と導入後（令和7年度）における、各学年および小学部全体で扱われた☆本題材数の比較を示したものである。

【題材例】 ※ 共通教材=☆ 教科書=1、2、3 「きみがよ」は全学年で扱う

6年・5年	歌唱		器楽	
	3 夕やけ小やけ☆ 3 小さな世界 3 どこかで春が ゆかいに歩けば	3 手のひらを太陽に 3 春のかぜ 3 友達になるために	3 オーラリー メヌエット 3 村まつり 和太鼓 3 威風堂々 3 茶色の小びん	
	3 大きなうた 3 まっかな秋 3 春がきた☆	こいのぼり 2 ゆき Believe（交流）	3 かえるの合唱 3 虫のこえ☆ 3 こぐまの二月 2 山の音楽家	

【図8 令和6年度末改訂 音楽内容表】

【表 4 年間指導計画作成ツール導入前後の取り扱った☆本題材数の比較】

	R6			R7			増加率
	☆本	全題材数	割合	☆本	全題材数	割合	
1年	14	21	0.6667	10	11	0.9091	1.363636
2年	10	20	0.5	11	15	0.7333	1.466667
3年	12	16	0.75	13	16	0.8125	1.083333
4年	12	26	0.4615	21	23	0.913	1.978261
5年	6	20	0.3	7	18	0.3889	1.296296
6年	7	19	0.3684	22	23	0.9565	2.596273
全体	61	122	0.5	84	106	0.7925	1.584906

令和6年度においては、全体の題材数122題材中、☆本題材は61題材であり、☆本の使用割合は0.50であった。一方、令和7年度では、全体の題材数106題材中、☆本題材は84題材となり、使用割合は0.79に上昇した。これにより、☆本題材の使用割合は約1.58倍に増加していることがわかる。

学年別に見ると、すべての学年において☆本題材の使用割合が増加しており、特に第4学年では0.46から0.91へと約1.98倍、第6学年では0.37から0.96へと約2.60倍と、大幅な増加が見られた。第1学年および第2学年においても、それぞれ約1.36倍、約1.47倍の増加が確認された。

以上の結果から、「年間指導計画作成ツール」導入により、各学年において☆本を題材として位置付ける割合が顕著に高まり、年間指導計画における☆本の活用が大きく促進されたことが示された。

一方、学習指導要領に示されている共通教材については、年間指導計画に位置付けた学年数および曲数に大きな変化はみられなかった。具体的には、令和6年度には4学年で5曲が扱われていたのに対し、令和7年度では5学年6曲となり、微増にとどまっていた。

作成された年間指導計画の記載内容を分析すると、題材に対応した具体的な学習活動まで記載されているのは高学年の2学年に限られており、他の学年では題材名のみ記載や、学習活動が部分的に記載されているものが多く見られた。

なお、新年度に実施された小学部主任会においては、本ツールの核となっている☆本の題材について、こども園など入学前や過去の学年ですでに扱われている場合、題材が重複する可能性があるのではないかという意見が挙げられた。

次に、小学部音楽科の年間指導計画作成者5名を対象に、音楽経験、年間指導計画作成時の参考資料、題材選択や作成時の困難感、および「年間指導計画作成ツール」に対する受け止めについて質問紙調査を実施した。以下にその結果を示す。なお、調査票の全文は、付属資料Eに示した。

(1) 対象者の音楽経験

回答者5名のうち、音楽科の教員免許を保持している者は1名であった。また、過去に楽器演奏や音楽活動の経験があると回答した者は1名であり、音楽に関する専門的な経験がないと回答した者は3名であった。

(2) 年間指導計画作成時に参考にする資料

年間指導計画作成時に参考にしてしている資料について複数回答可で尋ねた結果を表5に記す。

【表5 年間指導計画作成時に参考にした資料（複数回答）】

資料	人数
小学校検定教科書	4名
☆本	4名
昨年度の年間指導計画	4名
特別支援学校学習指導用要領解説	3名
過去の授業実践	3名
特別支援学校学習指導要領	2名
自身の音楽経験	1名（免許保持者）

(3) ☆本の活用状況

☆本の活用状況について尋ねたところ、回答者5名全員が「☆本を手にとってみたことがある」と回答した。そのうち、授業で☆本を使用したと回答した者は3名であり、☆本の教科書解説も活用したと回答した者は2名であった。

(4) 年間指導計画作成に関する自己評価

年間指導計画作成に関して、以下の項目について該当／非該当で回答を求めた結果を表6に示す。

題材選択や学年間のつながりに関する項目では全員が「該当」と回答した一方で、「学習指導要領の内容から授業を想像できる」と回答した者は3名にとどまった。

【表6 年間指導計画作成に関する自己評価（該当人数）】

項目	該当
児童の実態に合った題材を選ぶことができる	5名
前年度までの学習内容を踏まえて題材を選ぶことができる	5名
次年度以降の学習内容を考えながら題材を選ぶことができる	5名
作成時に参考となる資料がある	4名
学習指導要領の内容から授業を想像できる	3名

(5) 年間指導計画作成時に困難を感じる点

自由記述による回答を整理したところ、音楽に関する専門的知識の不足、題材が児童の実態に適しているかの判断の難しさ、前年度までに扱った題材が把握しにくさ、学年間の系統性を見通しにくさが主な困難として挙げられていた。

(6) 年間指導計画作成ツールの使用状況と受け止め

調査対象者5名全員が「年間指導計画作成ツールを使用した」と回答した。

自由記述では、音楽経験の有無にかかわらず根拠をもって題材やねらいを設定しやすくなった、☆本に触れる機会が増え、授業で活用するきっかけとなった、という意見が見られた。一方で、題材数の多さや、教科書に掲載されていない活動の扱いにくさを指摘する意見もあった。

2 授業構想・授業実践に関する結果

本項では、「年間指導計画およびツール」および☆本の活用状況について、小学部音楽科授業担当者を対象に実施した質問紙調査の結果を示す。調査は、令和7年度1学期末および2学期末の2回に分けて実施したが、設問内容はほぼ同一であったため、本研究ではこれらの結果を総合して整理・記述する。

授業実践をするための準備段階として、当初は最新刊の☆本が学部の1セットのみであったことから、活用の機会が限られている状況が見られた。そこで、各学年に☆本および☆本教科書解説のセットを整備した。あわせて、学習指導要領の内容に沿った授業づくりや、☆本の有用性について周知を図るため、東京福祉大学の工藤傑史先生を講師に招き、音楽科の学習指導要領と授業づくり、☆本の意図に関する講演会を実施した。

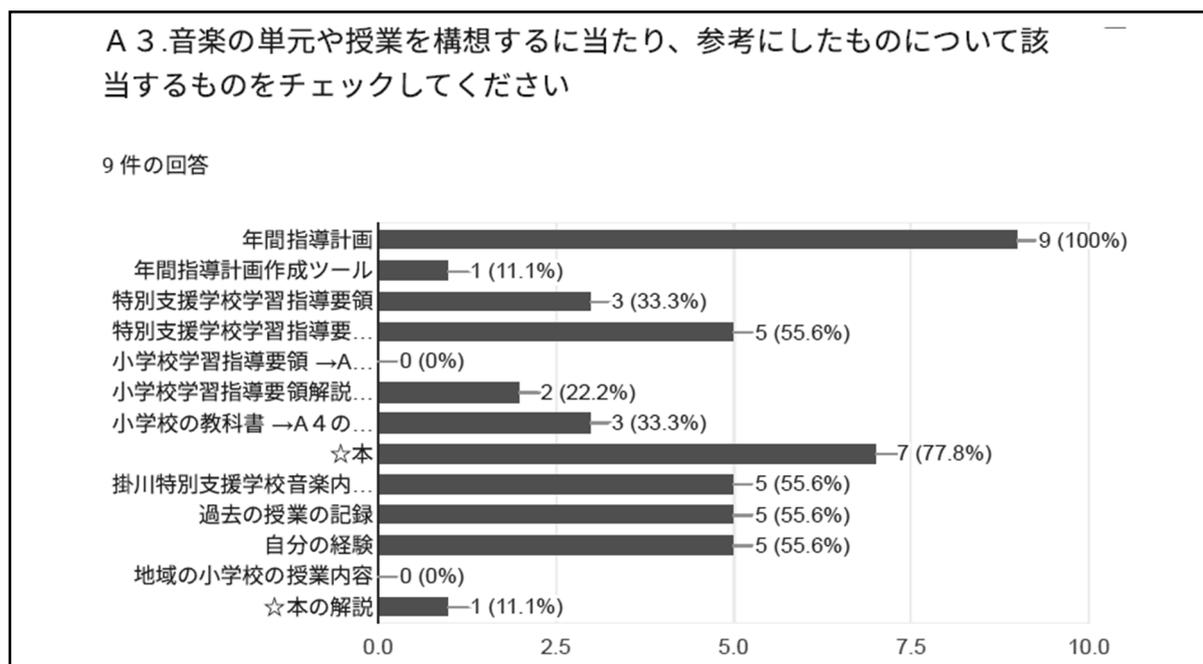
質問紙調査では、1学期末に小学部音楽科授業担当者9名、2学期末調査に7名、計16名から回答を得た。調査方法はいずれも質問紙によるもので、選択式および自由記述式の設問から構成した。なお、質問紙調査に用いた調査票の全文は付属資料Fに示した。

(1) 回答者の授業担当状況および音楽経験

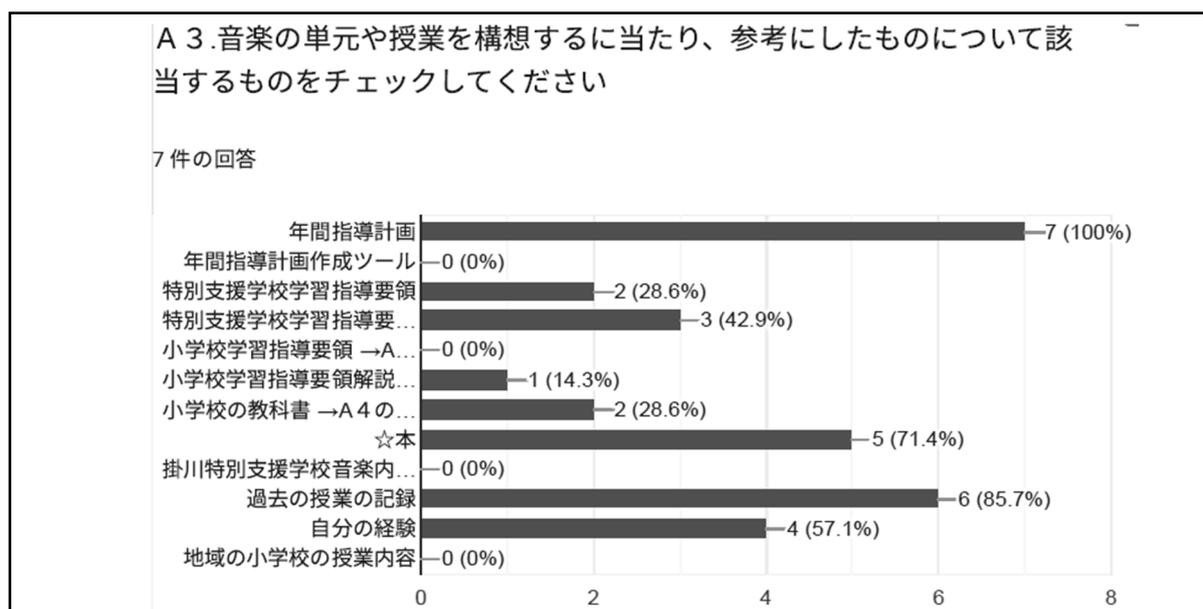
回答者は1学期が9名、2学期は7名であり、いずれも小学部において音楽の授業を担当する教員であった。音楽に関する経験については、1学期の調査では音楽の免許を有する教員は9名のうち1名であり、残りは免許を有していないが、ピアノ教室や音楽系の部活動等の経験を有していた。2学期調査では音楽の免許を有する教員はいなかったが、7名中5名は何らかの音楽経験があり、2名は音楽に関する経験がないと回答していた。

(2) 音楽の単元・授業構想時に参考にした資料（図9, 図10）

音楽の単元や授業を構想する際に参考にした資料について尋ねた結果、1学期の調査では☆本を参考にしたと回答した教員は9名中7名であった。2学期調査においても、☆本を参考にしたと回答した教員は7名中6名であり、両学期ともに多くの教員が授業構想段階で☆本を参照していることが確認された。一方「年間指導計画作成ツール」については、参考にしたと回答した教員は1学期調査では1名、2学期調査では0名であった。



【図9 1学期 授業構想時に参考にした資料（複数回答）】



【図10 2学期 授業構想時に参考にした資料（複数回答）】

（3）「年間指導計画作成ツール」を使用しなかった理由

「年間指導計画作成ツール」を使用しなかった理由としては、1学期・2学期ともに「使い方が分からなかった」「時間的な余裕がなかった」といった回答が多くを占めていた。

2学期調査ではこれに加えて、「存在を知らなかった」「すでに年間指導計画ができていた」といった理由もそれぞれ1名ずつ挙げられていた。

（４）☆本の活用状況

音楽の☆本の活用状況については、1学期調査では全員が☆本を手にとっており、そのうち2名は目を通すにとどまっていたが、他の教員は授業準備や授業検討、実際の授業で活用していると回答していた。2学期調査でも「活用していない」と回答した教員はおらず、☆本を手にとったのみと回答した教員は1名で、その他の教員は授業準備や話し合い、授業で実際に活用していると回答していた。

（５）自由記述に見られた記述内容

自由記述欄では、1学期・2学期ともに、音楽の授業づくりに関して「具体的に授業で何を行えばよいかかわかる資料」を求める記述が複数見られた。特に「題材選びの参考となる資料があるとよい」という記述は、2学期調査では7名中5名(71.4%)に見られ、他にも「年間指導計画を見るだけで授業のねらいがわかる資料」などに関する要望も複数見られた。

第4章 全体（研究Ⅰ・研究Ⅱ）を通じた考察

第1節 「年間指導計画作成ツール」の有効性とその限界

本研究では、「年間指導計画作成ツール」を活用することにより、音楽を専門とするか否かにかかわらず、教員が学習指導要領に即した年間指導計画および授業計画を作成できるようになることを仮説として設定した。本節では第4章で示した年間指導計画の分析結果および質問紙調査の結果をもとに、この仮説について考察する。また、学習活動と学習指導要領との対応関係を可視化した図11および図12を手がかりとして、年間指導計画作成および授業づくりの改善の方向性について検討する。

まず、年間指導計画作成段階においては、「年間指導計画作成ツール」の導入により、各学年で☆本を題材として位置付ける割合が大きく増加したことが確認された。特にこれまで☆本の題材が限定的であった学年においても、☆本題材が年間指導計画に位置付けられるようになった点は、ツールが題材選択の際の拠り所として機能した結果であると考えられる。このことから、☆本を基盤とした年間指導計画作成を促すという点において、ツールは一定の有効性を有していたといえる。

また、質問紙調査の結果からは、音楽の免許を有していない教員が多数を占める中で、☆本を授業構想や授業準備、授業実践の場面で参照している実態が確認された。☆本の題材率が高まったことにより、授業づくりの際に参照できる具体的な教材や活動のイメージが共有され、音楽を専門としない教員にとっても授業構想の拠り所になった可能性がある。この点において、ツールの導入は教材研究や☆本への理解を促進する役割を果たしたと考えられる。

一方で、「年間指導計画作成ツール」そのものを授業構想時に参照した教員は少数にとどまっており、質問紙調査においても、ツールを使用しなかった理由として「使い方がわからなかった」「時間的な余裕がなかった」といった回答が複数見られた。このことから、ツールは年間指導計画作成者にとっては有効であった一方で、日常的な授業づくりの場面において、十分に活用されるには至らなかったことが示唆される。

さらに、年間指導計画の分析からは、題材は明記されているものの、具体的な学習活動が記載されていない計画が多く見られた。質問紙調査の自由記述においても、「具体的に何をすればよいかのかわかる資料」を求める声が複数確認されており、題材を選択した後に、ねらいや学習活動を具体化する段階で困難を感じている教員が一定数存在することがうかがえる。

以上のことから「年間指導計画作成ツール」は、☆本を基盤とした年間指導計画作成を促進する点において一定の有効性を有していたが、授業づくりにおける具体的な学習活動の構想までを支援するには課題が残されたといえる。この点については、教員がどのような点で学習活動の構想に難しさを感じているのか、また、年間指導計画や既存の資料の構成がどのように影響しているか次節で詳しく検討する。

第2節 学習活動が明示されにくかった要因

第4章の年間指導計画の分析および質問紙調査の結果から、題材は年間指導計画に位置付けられているものの、具体的な学習活動まで明示されていない計画が多く見られた。本節ではその要因について考察する。

第一に、音楽を専門としない教員が多数を占めるという実態が挙げられる。質問紙調査では、音楽の免許を有していない教員が多く、自由記述においても授業づくり際に「具体的に何をすればよいかわからない」「授業のイメージが持ちにくい」といった記述が見られた。音楽科では、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「身体表現」「鑑賞」という領域・分野が設定されており、これらを児童の実態に応じて構想することは、専門的な知識や経験が十分でない教員にとって容易ではないと考えられる。

第二に、学校で行われていた年間指導計画への表記方法や、題材選定の目安となる音楽内容表の構成が、学習活動の具体化を難しくしていた可能性がある。音楽内容表は、各段階と領域・分野に対応する題材名が整理されている一方で、題材に基づく学習活動やねらいについては明示されていなかった。そのため、教員は題材名を手掛かりに授業を構想することになり、題材そのものが何をねらいとしているのか、どのような学習活動が想定されているのかを十分に把握しにくい状況にあったと考えられる。

第三に、「年間指導計画作成ツール」には学習活動を記入する欄が設けられているものの、学習活動を具体的に思い描くこと自体が困難であった可能性がある。自由記述では、学習指導要領の内容から授業を想像することの難しさを指摘する記述が見られた。学習指導要領は具体的な授業活動を直接示すものではないため、特に音楽を専門としない教員にとっては、内容を授業場面に落とし込む際の橋渡しが必要であったと考えられる。

一方で、「年間指導計画作成ツール」の核となっている☆本には、各題材において想定される学習活動や指導上の工夫が、歌詞、絵譜、写真、挿絵、教科書解説などを通して具体的に示されている。これらを参照することで、活動のイメージをもとに学習活動を記述することは可能であると考えられるが、題材を変更した場合や、題材名のみで年間指導計画を作成した場合には、☆本の解説を十分に活用できない状況が生じていた可能性もある。

以上のことから、学習活動が年間指導計画に明示されにくかった背景は、教員の専門性だけでなく、これまでの年間指導計画や音楽内容表の構成、題材中心の計画作成の慣行、学習指導要領と授業をつなぐ資料の不足といった、複数の要因が重なっていたと考えられる。

これらの要因を踏まえ、次節では、学習活動を基点とした年間指導計画作成へと転換するための改善の方向性について検討する。

第3節 今後の活用に向けた課題と改善の方向性

「年間指導計画作成ツール」は、学習指導要領の内容を踏まえた年間指導計画の作成を支援し、さらに☆本と結び付けることで、授業づくりの拠り所となることを目的として開発したツールである。しかし、質問紙調査の結果からは、授業者の多くが「年間指導計画作成ツール」を授業構想の際に参照することなく、年間指導計画に記載された題材名を手がかりに授業を構想している実態が明らかとなった。このことから、今後はツールの周知を改めて行う必要があるとともに、年間指導計画において「どの題材を扱うか」という観点だけでなく、「何を教えるのか」「学習指導要領のどの内容を履修させるか」という視点をより重視する必要があるのではないかと考える。実際に作成された年間指導計画を分析すると、題材名のみが記載され、学習活動が明示されていない学年が多く見られた。このことから、学習活動を構想し記載すること自体に難しさを感じている教員が少なくないことがうかがえる。「年間指導計画作成ツール」を用いて題材や学習指導要領の内容を整理することはできても、具体的な学習活動を構想する段階で困難を感じている可能性があり、特に音楽を専門としない教員にとっては、その傾向が強いと考えられる。

また、題材選びそのものに難しさを感じている教員が多いことも、調査結果から明らかになった。

この課題に対応するためには、「題材→学習活動」という従来の流れから、「学習活動（ねらい）→題材」という順序へと、年間指導計画作成の考え方を転換することが重要である。すなわち学習指導要領の内容のうち、当該学年でどの内容を履修するのかを明確にし、それを実現するための具体的な学習活動を構想したうえでその活動に適した題材として、☆本の題材を選択するという流れである。

そこで、☆本の教科書解説に示されている各題材のねらいや指導上の工夫をもとに、題材に内在する学習のねらいを整理し、それを具体的な学習活動として一覧化した。（11 全体像は付属資料G参照）

音楽科学習段階表（☆本教科書解説を活用）

具体的な

おんがく	<input type="checkbox"/> 4分音符や8分音符を組み合わせた旋律奏をする		・こくまの2
	☆☆☆ (小3段階)	<input type="checkbox"/> 色々なリズムを組み合わせる <input type="checkbox"/> わだいをえんそうしよう <input type="checkbox"/> タツカのリズム <input type="checkbox"/> ミッキーマウスマーチ	<input type="checkbox"/> リズム譜を見ながら曲に合わせて演奏する <input type="checkbox"/> むらまつり
おんがく	☆☆	<input type="checkbox"/> ジェンカやチャチャチャなどのリズム <input type="checkbox"/> しろくまのジャンカ <input type="checkbox"/> おもちゃのチャチャチャ <input type="checkbox"/> 3拍子で打つ <input type="checkbox"/> たぬきのたいこ	<input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら打楽器をならす <input type="checkbox"/> もちつき
	☆☆	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符で打つ <input type="checkbox"/> ぶんぶんぶん <input type="checkbox"/> やまのおんがくか <input type="checkbox"/> メトロノームに合わせて打つ <input type="checkbox"/> とけいのうた	<input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら2音ならす <input type="checkbox"/> おせんべやけたかな
	☆☆	<input type="checkbox"/> 4拍子の一拍目を打つ <input type="checkbox"/> かねがなる <input type="checkbox"/> 「タンタンウン」を打つ <input type="checkbox"/> てをたたましよう <input type="checkbox"/> 「タンウン」のリズムで打つ <input type="checkbox"/> 拍打ちや連打をする <input type="checkbox"/> いろいろながつき	<input type="checkbox"/> 絵譜を見ながらドをならす <input type="checkbox"/> まほうのど
おんがく	☆ (小1段階)	<input type="checkbox"/> 声やよびかけに合わせてならす <input type="checkbox"/> はなび <input type="checkbox"/> がつきをならそう <input type="checkbox"/> 歌詞に合わせてならす <input type="checkbox"/> へい!たんぷりん <input type="checkbox"/> おおきなたいこ	<input type="checkbox"/> 教師を模倣してならす <input type="checkbox"/> へい!たんぷりん <input type="checkbox"/> おおきなたいこ
	キーワードと学習指導要領との主な関係	リズム・拍・速度 <A表現 イ(イ)㊸㊹> <共通事項 ア> ※音楽を形づくっている要素	楽譜を読む・模倣でならす <A表現 イ(ウ)㊸> 共通事項イ
		器楽表現に対する思いを持つ <A表現 イ(ア)>	

○ <器楽編>

※ただし1段階は「音楽あそび」として歌唱や身体表現など

※「共通事項」「内容の取扱いについての配慮事項」参照

注) 小学部一段階は分野が「音楽あそび」に統一されているため、音楽の☆本および教科書解説の編集協力者でもある東京福祉大学の工藤先生から提供を受けた「テーマ別の小見出し」を参考に、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「身体表現」の各分野へ再配列した。

【図12 学習活動と学習指導要領内容との対応を示した音楽科学習段階表】

この「音楽科学習段階表」を活用することで、教員は題材名に依存することなく、「どの内容を、どのような活動で扱うか」という視点から学習活動を具体的に構想し、それを年間指導計画に明示することが可能となる。これまで「年間指導計画作成ツール」や年間指導計画に学習活動を記載することが求められながらも、学習活動を具体化する難しさから十分に記載されてこなかった点について、本表はその支援となるものである。

また、学習活動ごとに対応する☆本の題材を併記することで、教員は多数の題材の中から選択するのではなく、限定された題材群の中から選ぶことが可能になり、題材選びそのものに伴う困難さの軽減が期待される。学習活動に対応する☆本の教科書解説を参照する

ことで、具体的な授業の進め方を踏まえた授業構想が可能となる点も利点である。たとえ異なる題材を用いる場合であっても、ねらいとする学習活動が共通していれば、☆本の教科書解説に示された指導の工夫や授業展開を参考にすることができ、授業づくりの支援につながると考える。

さらに、学習活動項目をチェック式とすることで、年間を通して内容の偏りがいないか確認、学習指導要領の内容を履修しているか確認、小学部1段階から小学部3段階までの系統性、偏りを確認しながら、計画を立てることができる。

なお、年間指導計画作成ツール導入前後の比較において、☆本題材の使用割合は大きく増加した一方で、学習指導要領において位置付けられている共通教材の取り扱いについては、題材数に大きな変化は見られなかった。そこで、音楽科学習段階表に、学習活動のチェック欄に加えて共通教材の取り扱い状況を確認できる欄を新たに設け、該当する教材については☆印で示すことにした。このことにより、年間指導計画作成時に、学習活動の履修状況とあわせて、共通教材の配置や偏りを視覚的に把握することが可能となる。

今後は年間指導計画には題材名のみならず、必ず学習活動を明示することを共通理解とし、活動を基点とした計画作成を定着させていく必要があると考えられる。

以上のように、「年間指導計画作成ツール」と☆本を、学習活動を中心に再構成して活用することで、音楽を専門としない教員にとっても授業の見通しを持ちやすい年間指導計画作成が可能になると考えられる。

第5章 まとめ

本研究では、知的障害教育校小学部音楽科において、学習指導要領に基づいた年間指導計画および授業づくりを支援するために開発した「年間指導計画作成ツール」を用い、その活用の実際と効果について検証した。

質問紙調査および授業実践の結果から、授業者による「年間指導計画作成ツール」の直接的な活用は限定的であったものの、☆本の活用は大きく進展したことが明らかになった。これまであまり活用されていなかった☆本が授業準備や授業構想、授業実践において参照されるようになり、学校全体として☆本への注目度が高まったことは、本研究の大きな成果である。この動きは音楽科にとどまらず、職業・家庭など、他教科での話し合いにおいても☆本を参照する機会が生まれるなど広がりを見せている。

また、本校では、これまでに音楽科の☆本の教科書が選定されていなかったが、本研究の取り組みを通して☆本の有用性が共有され、次年度に向けて一部の学年で教科書の給与が予定されるに至った。この点も、年間指導計画作成ツールと☆本を関連付けて提示したことによる、実践的な成果の一つであると言える。

一方で、質問紙調査では「忙しさ」や「時間的余裕のなさ」を理由に、ツールを十分に活用できなかったという回答も見られた。これらの回答からは、業務の多忙化に加え、新しい書式やツールに対する心理的な負担や抵抗感が存在している可能性も示唆される。また、年間指導計画に学習活動が十分に明示されていない学年が多く、題材を設定しても「何をねらい、どのような活動を行うか」を具体的に構想することに難しさを感じている教員が多いことも示された。これらの課題を踏まえ、本研究では、学習活動を基点として年間指導計画を構想するための一つの試案として、学習活動、学習指導要領の内容、ならびに

☆本の題材を対応付けた「音楽科学習段階表」(図12)を新たに作成した。本表は、題材名に依拠して計画を立てるのではなく、「どの内容を、どのような活動で扱うか」という視点から年間指導計画を構想することを意図したものである。なお、本表は本研究の結果をもとに作成した提案段階の資料であり、実際の年間指導計画作成や授業実践における有効性については、今後の検証が必要である。

これらの結果を踏まえると、本研究の仮説である「年間指導計画作成ツールを活用することにより、専門性の有無にかかわらず、教員が学習指導要領に即した年間指導計画および授業計画を作成できるようになる」という点については、年間指導計画作成者にとっては有効であり、☆本の活用促進を通して授業づくりを支援するという点においては一定程度支持されたといえる。一方で、授業担当者全体においてツールの活用が十分に定着したとは言い難く、仮説の達成には課題が残った。

なお本研究で作成した「年間指導計画作成ツール」については、校内外から問い合わせがあり、静岡県在校長会を通して公開するに至った。このことは、本研究の取り組みが一定の実践的価値を有し、他校においても関心をもって受け止められたことを示すものである。

本研究は小学部音楽科を対象とした実践であったが、☆本が設定されている教科においては、年間指導計画作成ツールや音楽科学習段階表の考え方を中学部、さらには他教科へと転用することも可能であると考えられる。今後は、学部や教科を広げた実践を通して、特別支援学校における教科指導の計画作成支援の在り方についてさらなる検討をすすめていくことが課題である。

引用文献

- 1) 中央教育審議会（2016）幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）. 中教審第197号. 文部科学省
- 2) 文部科学省（2018）特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学校・中学校）. 文部科学省
- 3) 文部科学省（2020）特別支援学校小学部知的障害者用音楽科教科書「おんがく☆」. 文部科学省
- 4) 文部科学省（2020）特別支援学校小学部知的障害者用音楽科教科書「おんがく☆☆」. 文部科学省
- 5) 文部科学省（2020）特別支援学校小学部知的障害者用音楽科教科書「おんがく☆☆☆」. 文部科学省
- 6) 文部科学省（2020）特別支援学校中学部知的障害者用音楽科教科書「音楽☆☆☆☆」. 文部科学省
- 7) 文部科学省（2020）おんがく☆ おんがく☆☆ おんがく☆☆☆教科書解説. 文部科学省
- 8) 文部科学省（2020）音楽☆☆☆☆ 音楽☆☆☆☆☆教科書解説. 文部科学省
- 9) 全国特別支援学校知的障害教育校長会（2024）「令和6年度情報交換資料全国まとめ. 全国特別支援学校知的障害教育校長会
- 10) 武富博文（2022）知的障害者用教科書・教材等の作成・活用に関する政策提言－知的障害者用教科書・教材等に関するアンケート調査を通して－. 特別支援教育実践センター研究紀要第20号, pp. 97-108

付属資料

【資料 A 年間指導計画作成ツール フェイスシート】

R7年度 フェイスシート							単元の達成状況
学部・学習グループ	学年	教科名	使用教科書		作成者		
小学部	○	小学部音楽			○○ ○○		
音楽科目標： 生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力	育成を目指す資質・能力の具体	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 ・感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。【思考・判断・表現】 ・音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。【学びに向かう人間性】 					
年度末までに目指す段階の目標	2 小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 ・音楽表現を工夫することや、表現することを通して、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。【思考・判断・表現】 ・音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。【学びに向かう人間性】 					
		(学習活動)	教科書	題材	内容(学習指導要領を要約して記載)		
年間を通して行う学習活動 (授業の最初と最後に毎回同じ活動があれば記載)		(あいさつ)					
		(リトミック)	身体表現 共通事項	どうぶつになつて	ウ_の音や音楽を聴いて手足や身体全体を自然に動かす 思ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、		
		(共通事項)	共通事項	色やイラストを用いた絵譜	知イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語		
50	年間総授業時数						
月	時数	<分野>「単元名」	学習活動	教科書	題材	内容(学習指導要領を要約して記載)	
4	4	<歌>「みんなであうたおう」	(友達と声を合わせて歌う)	小2 段階 校歌		ウ_の教師や友達と一緒に歌う	
			(運動会で歌う歌を練習する)	行事・交流 ゴーゴーゴー		※行事や交流及び共同学習で歌う歌やダンスの練習	
5	5	<器>「4びょうしてたこ」	(手拍子で4拍子を打つ)	器楽☆☆ てをたたましよう		ウ_の範奏を聴き模倣をして演奏する	
6	6	<歌>「げんきにうたおう」	(リズムに合わせて歌う)	歌唱☆☆ みなみのしまのはめはめ		ウ_の範唱を聴いて曲の一部分を模唱する	
7	4	<器>「がっきで4びょうし」	(打楽器で4拍子を打つ) (好きな打楽器を見付ける)	器楽☆☆ ぶん ぶん ぶん 音楽づくり あめの おとを ならして		ウ_の身近な打楽器を演奏する ア_の音遊びを通して音の面白さに気付く	
8 9	5	<歌>「くれよんになつたうたおう」	(ことばのリズムに合わせて歌う) (スマイルの練習を行う)	歌唱☆☆ おはよう くれよん 行事・交流 スマイル		イ_の曲の特徴的なリズムと旋律に気付く ※行事や交流及び共同学習で歌う歌やダンスの練習	
10	6	<器>「3拍子にちようせんしよ」	(2つに分かれて3拍子を打つ) (3拍子を意識して聴く)	器楽☆☆ たぬきの たいこ 鑑賞☆☆ すけーたーず わるつ		イ_の拍や曲の特徴的なリズムに気付く ア_身近な人の演奏を見たり体の動きで表したりしながら聴く	
11	5	<歌>「どれみにあわせよう」	(音の振り付けをしながら歌う)	身体表現 小2 段階 どれみの うた		ウ_の示範を見て模倣したり拍や特徴的なリズムを意識し イ_の曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉に気付く	
12	3	<器>「ともだちといっしょにえ」	(パートに分かれて合奏する) (教師の演奏を聴く)	器楽☆☆ どれみで あいさつ 鑑賞☆☆ ほしに ねがいを		イ_の楽器の音色の違いに気付く イ_身近な人の演奏に触れて好きな音色や楽器の音を見付け	
1	4	<歌>「ゆったりとうたおう」	(歌詞に合わせて気持ちを込めて歌う)	歌唱☆☆ ふじさん		ア_好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いた	
2	4	<器>「わだいでとんとんとん」	(和太鼓でリズム打ちを行う)	音楽づくり りずむを くみあわせよう		ウ_の教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる	
3	4		(曲に合わせて和太鼓を打つ)	身体表現 よーいやさ		ウ_の示範を見て模倣したり拍や特徴的なリズムを意識し	
記録							

【資料C ☆本題材一覧】

●各段階で扱う☆本の題材一覧（色がついたものは過去にっ取り扱った題材）

段階				
小音1段階	小音2段階	小音3段階	中音1段階	中音2段階
がっきのおとあて	さあ みんなで	はるの かぜ	Believe	花
すずの きよく	いっぽんぼし__ごちよごちよ	はるが_きた	明日という大空	つばさをください
まじっく__まんぼ	すうじの__うた	どじょあ__ふなっア	友がちはいいもんだ	あの青い空のように
すてきな__はーぶ	たごにゅうどう	パレード	春の小川	こいのぼり
かばさを__ならそう	はるの__おがわ	たのしいぬ	夏の思い出	夏は来ぬ
いっしょに__ならそうよ	あまだれ	にじ	もみじ	里の秋
ちゅうりつぷ	あめの__おとを__ならして__みよう	きんぼ	さくらさくら	冬げしき
ごどりの__うた	あめふり__すいぞくかん	せんろは__つづくよ__どこまでも	茶つみ	おぼる月夜
こいのぼり	ぶーるで__ちゃっぶん	おどろ__たのしい__ポーレチケ	ふじ山	われは海の子
おひさま__きらきら	みなみの__しまの__はめはめは__だいおう	ぼくの__ミックスジュース	うさぎ	子もり歌
せんせいと__おともだち	せんたく	だ・る・ま・さんが__おどった	とんび	早春ふ
おべんとうぼこの__うた	はるの__うた	あさまで__サンバ	赤とんぼ	スキーの歌
はを__みがきましよう	こぶためきつねこ	雨の__音がくを__つくりう	手びょうしりレー	ふるさと
おかたつけ	あいあい	かえるの__がつしよう	おお牧場ほみどり	手ぶしようしの花束
さよなら__あしたもね	いろいろな__だがつき	きらきらぼし	ウンパッパ	Head_Shoulders_Knees_and_Toes
あ・い・ら・え・おーっ	かねが__なる	ピクニック	歩いてゆこう	Hokey_Pokey
おやつ__たーべよ	てを__たたまましよう	ゆかいな__まきぼ	音楽を聞いて__体を動かそう	よさこい囃子おどり
ぼっぱっ__ばたらかの__うた	ぶん__ぶん__ぶん	テルテル__ポイズ	林間学校へ行こう	シンクロ__Bom_Ba_Ye
びすけつとを__やましよう	みんなで__ならず__がっきの__うた	なつの__山	セブンスステップス	マイム__マイム
はらべこ__あおむし	おおきな__かぶ	山びこ__ごっこ	タタロチカ	東京音頭
ばんやさんに__おかいもの	おはよう__くれよん	だいくの__きつつきさん	パブリカ	エイサー
ゆらゆら__ぼーと	とけいの__うた	山ごや__いっけん	パレエ「ねむれる森の美女」より「パノラマ」	組曲「動物の謝肉祭」より水族館
あたま__かた__ひざ__ぼん	おおきな__ふぶどけい	きみの__こえ	鳥の歌・大わし	アフリカン__シンフォニー
むすんで__ひらいて	かれー__らいす	ともだちに__なるために	勇氣一つを友にして	ピーターとおおかみ
ばんだ__うさぎ__こあら	しゃぼんだま__とぼせ	手と__手と__手と	サウンド・オブ・ミュージック	くるみ割り人形
まあるい__たまご	しゅはくの__うた	音がく__おくりもの	オペラ「まてき」	歌曲「魔王」
のねずみ	また__あそぼ	小さな__せかい	音ふや休ふのきまり	楽器を作ろう
とんとんとんとん__ひげじいさん	うんどうかい	せかい中の__子どもたちが	いろいろな音を作ろう	トカトンで演奏しよう
おおきな__わ__ちいさな__わ	はるの__だいすき	オーラ__リー	絵を音にしよう・音を絵にしよう・字を声にしよう	おはやしを作ろう
かたつわり	どうぶつに__なつて	わだいを__えんそうしよう	お話の音楽を作ろう	オペラ「まてき」よりバ・バ・バ
おばけなんて__ないさ	おんまは__みんな	小犬の__ワルツ	動物園の仲間	パッヘルベルのカノン
たなばたさま	こぞの__ごしん	ゴリウオーグの__ケークウォーク	ひょうしのちがいを比べよう	「アルルの女」第2組曲からフランドール
はなび	えびかにくす	シンコペイテッド__クロック	速のちがいを比べよう	音階と和音
らみ	やきもち__くーちーぼー	オーバー__ザ__レインボー	音色のちがいを比べよう	愛の悲しみ・愛の喜び
おうま	きのこ	サウンド__オブ__ミュージック	日本各地の民ようとおどり	きらきら星変奏曲
ぞうさん	ゆきの__おどり	とんぼ	かがやけやし	郷土の音楽を調べよう
くまさん__くまさん	つき	あらうま	六段の調べ	かがり火だいこ
ばななの__おやこ	すけーたーず__わるつ	ブルーメンの__音がくたい	鹿の遠音	春の海
はっぴー__ばーすでー	しろうまの__じえんか	たたたん__じよん	「えちごじし」「つがるじよんがら節」	歌舞伎「動進帳」
てを__つなごう	なんに__なるかな	あきの__子	世界の音楽・楽音・曲、歌謡、アメリカ(ハワイ)の音楽	雅楽「越天楽」
ばすごっこ	じゃんけんぼん	まっかな__あき	声の出し方	越天楽今様
はたらく__くるま	ちゃやちゃは__すばらしい	たやけ__小やけ	ラバース・コンチェルト	世界の音楽・楽器・曲
おもちや__へいたい	おもちやの__ちゃやちゃ	しょうじょうじの__たぬきばやし	サラソポندا	コンドルは飛んでいく「ペルー」
どんぐり__ころころ	たぬきの__たいこ	赤おにと__青おにの__タンゴ	空を見上げて	ガムラン
まつぼっくり	ふしぎな__つきよの__おんがくかい	村まつり	若者たち	「輪唱」とは「合唱」とは
とんぼの__めがね	やまの__おんがくか	虫の__こえ	上を聞いて歩こう	静かな湖はん
ながく__まーち	くらりねつ__ぼるか	虫の__がつそうたい	少年時代	こげよマイケル
ふりふり__だんす	いろいろな__おと	ちやいろの__小ひん	島人ぬ宝	君をのせて
がぼつと	どれみの__うた	ミックスマウス__マーチ	まきぼの朝	夢の世界を
おどる__こねこ	まほろ__ど	いふうどうどう	ドナドナ	Smile Again
こんこん__くしゃんの__うた	おせんべ__やけたかな	やおやの__おみせ	アイネ・クライネ・ナハトムジーク	語り合おう
まめまき	どれみで__あいさつ	もしも__コックさん__だったなら	A列車で行こう	手紙__拝けい__十五の君へ__
	ふしぎな__ほけつと	手のひらを__たいように	カルメン前奏曲	マイパレード
	いぬの__おまわりさん	大きな__うた	Let_it_Be	旅立ちの日に
	やぎさん__ゆうひん	ギャロップで__おどろろ	ハリ・ポッターのテーマ	交きょう曲第5番「運命」第1楽章
	あめふり__くまのこ	おちやか__ほい	グリーンズリブスによる変奏曲	組曲「わく星」より木星
	もりの__くまさん	おしくら__まんじゅう	リコーダーのふき方・シシシでおはなシ	リベルタンゴ
	ほしに__ねがいを	かくれんぼ	ソラシのワルツ	人生のメリーゴランド「ハウルの動く城より」
	はくちよう	こくまの__二月	ふけるぞソラシド	サークル・オブ・ライフ
	ふじさん	きたかぜ小ぞうの__かんたろう	ハフ	つばきむめ「オペラ」
	かちつれつしゃ	どこかで__はるが	マンボNo.5	いろいろな合唱
	じえつとこーすたー	がっきで__おはなししよう	セロひきのゴースト	オーケストラの編成
	よーいやさ	ありがとう__きようなら	みんなで歌おう	日本の伝統芸能
	あかたすんどうんちへしーやーぶーへ	はじめの__いっぽ	君が代	いろいろな舞台芸術
	ひらいた__ひらいた	シンクストラの__がっき		シング・シング・シング
	うさぎ	君がよ		ラデツキー行進曲
	おしょうがつ			風になりたい
	りずむを__くみあわせよう			森は生きている
	もちつき			テトのパンは__あ
	うれしい__ひなまつり			冬の星座
	ひのまる			いのちの歌
	きみがよ			ひまわりの約束
				小さな木の実
				明日へつなくもの
				君が代

【資料D 令和6年度末改訂 音楽内容表】

【題材例】	歌謡	器楽	音づくり	身体表現	鑑賞
6年・5年	3 タヤカハヤク☆ 3 小ざな世界 3 どこかで春がゆかいに駆けば 3 春がきた☆	3 オーラリー 3 メヌエット 3 村まつり 3 威風堂々 3 茶色の小びん	3 たたたんびよん 3 楽器でお話しよう ※「音づくり」「身体表現」を単元として行わない場合は歌唱・器楽・リトミックと関連させて「音づくり」や「身体表現」の内容を扱う（学習指導要領参照）	3 だるまさんがおどった 3 だいくのまつつさん 3 スマイル	3 シンコペティッド クロック 3 子犬のワルツ 3 オーバーザレインボー 3 よるこのうた
4年・3年	2 春の小川 2 ふじざん 2 うさぎ 2 うれしいひなまつり 2 南の島のハマハマ大王 2 おしょうがつ 2 ドレミの歌 2 もりのくまさん	2 かねがなる 2 とけいのうた 2 ゆきのおどり 2 ドレミであいさつ 2 手むきたきましよう 2 おもちゃのチャチャチャ 2 ぶんぶんぶん 2 ゆかいなもっさん（交流）	2 ミッキーワスマーチ 2 ゆかいな牧場 2 なんになるかな 2 和太鼓を演奏しよう 2 あめのおとをならしてみよう 2 いろいろな音	2 トレミの歌 2 エピカニクス 2 ジェットコースター 2 動物になって 2 おせんべい焼けたかな 2 ひらいたひらいた☆	2 クラリネットポリカ 2 大きな古時計 2 星に願いを 2 ジングルベル（器楽） 3 踊ろう楽しいボーレーチケ 2 しろくまのジエンカ 2 スケーターズワルツ 2 校歌
2年・1年	2 こぶたぬきつねこ 1 ことりのうた 1 ハッピーバースデー 旧1 あわてんぼうのサンタクロース 犬のおまわりさん 1 かたつむり☆ 1 ちゅうりっぷ	1 たなばたさま 1 チェッチェコロリ 1 楽器の音あて	1 いっしょにならそうよ 1 がっきをならそう 1 おやつたーべよ	1 動物になって 2 せんたく 1 なべなべそこぬけ 2 じゃんけんぼん 1 動物になって 1 お弁当箱の歌 1 だるまさん	1 おもちゃの兵隊 1 空飛ぶ宅配便 1 校歌 1 踊る子ねこ 旧1 あわてんぼうのサンタクロース 3 きらきら星 3 さんぽ

【資料E 年間指導計画作成に関する質問紙調査】(令和7年4月実施)

<調査の目的>

本調査は、小学部音楽科における年間指導計画作成の実態および「年間指導計画作成ツール」の活用状況や受け止めを把握し、今後の改善に資することを目的として実施した。

<回答方法>

該当する項目にチェックをしてください。自由記述については差し支えない範囲でご記入ください。

1. 当てはまるものを選択してください

- 音楽の免許を持っている
- 音楽の免許を持っていないがピアノ教室や音楽系の部活等の経験はある
- 音楽の免許をもっていない且つ経験もない

2. 年間指導計画作成時に参考にするものについて該当するものすべてにチェックしてください

- 特別支援学校学習指導要領
- 特別支援学校学習指導要領解説
- 小学校学習指導要領
- 小学校学習指導要領解説
- 小学校の教科書
- ☆本
- 掛川特別支援学校音楽内容表
- 昨年度の年間指導計画
- 過去の授業の記録
- 自分の経験
- 地域の小学校の授業内容
- その他

3. 【☆本について】音楽の☆本について、該当する項目を1つ選択してください。

- 音楽の☆本を手にとってみたことがある
- 音楽の☆本を使って授業を行っている
- 過去に音楽の☆本を使って授業をしたことがある
- 音楽の☆本の教科書解説を手にとってみたことがある
- 音楽の☆本の教科書解説を活用して授業を行ったことがある
- 該当なし

4. 年間指導計画作成に際し、当てはまるものを1つ選択してください。

●児童の実態に合った題材を選ぶことができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●前年度までの学習内容を踏まえて題材を選ぶことができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●次年度以降の学習内容を考えながら題材を選ぶことができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●作成の参考にする資料がある

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●学習指導要領の内容から授業の内容が想像できる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

5. 年間指導計画作成時に困ることがありましたらご記入ください

【自由記述】

6. 年間指導計画作成ツールを使用して年間指導計画を作成しましたか。

- した
- しなかった

【自由記述】しなかった理由があれば教えてください

7. 年間指導計画作成ツールを開発した意図は以下の項目の通りです。使用してみて感じたことについて、それぞれ当てはまるものを1つ選択してください。

●学習指導要領の内容に沿った計画をたてることができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●教科の系統性を意識した計画をたてることができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●授業のねらいは何かを示すことができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●年間を見通してまんべんなく題材や内容を選べる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●年間指導計画作成者の題材選定の意図を知ることができる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●個別の指導計画の目標の設定の参考になる

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

●単元の話し合いのメモとして活用できる

あてはまる

ややあてはまる

あまりあてはまらない

あてはまらない

8. ご協力ありがとうございました。最後にツールの使用してみて、改善点や使いにくい点があればご記入ください。

【自由記述】

【資料 F 授業構想・授業実践に関する質問紙調査票】(令和 7 年 1 学期末・2 学期末実施)

<調査の目的>

本調査は、小学部音楽科における授業構想および授業実践の実態、ならびに「年間指導計画作成ツール」および☆本の活用状況を把握し、今後の授業づくりおよび年間指導計画作成の改善に資することを目的として実施した。

<対象> 令和 7 年度に小学部音楽科の授業を担当した教員 (T 1)

※本調査は、1 学期末および 2 学期末に同一内容で実施した。

A. 基本情報

A 1. 当てはまるものを選択してください

- 音楽の免許を持っている
- 音楽の免許を持っていないがピアノ教室や音楽系の部活等の経験はある
- 音楽の免許をもっていない且つ経験もない

A 2. 音楽の授業を担当している学年 (複数選択可)

- 1 年
- 2 年
- 3 年
- 4 年
- 5 年
- 6 年
- その他

A 3. 音楽の単元や授業を構想するに当たり、参考にしたものについて該当するものをチェックしてください

- 年間指導計画
- 年間指導計画作成ツール
- 特別支援学校学習指導要領
- 特別支援学校学習指導要領解説
- 小学校学習指導要領 → A 4 へ
- 小学校学習指導要領解説 → A 4 へ
- 小学校の教科書 → A 4 へ
- ☆本
- 掛川特別支援学校音楽内容表
- 過去の授業の記録
- 自分の経験
- 地域の小学校の授業内容
- その他 (自由記述)

A 4. 音楽の単元や授業を構想するに当たり小学校の教科書、学習指導要領を活用した理由は何ですか。

- 年間指導計画に題材として設定されていたため
- 学校に教科書があったため
- 学校に音源CDがあったため
- 小学校との交流で使いたいため
- その他【自由記述】

B. 年間指導計画作成ツールについて

B 1. 年間指導計画作成ツールを使って単元計画、授業計画を考えましたか。

- はい（→B 2へ）
- いいえ（→B 3へ）

B 2. ツールを使って良かった点を教えてください。（複数回答可）

- 授業の狙いが立てやすくなった
- 学習指導要領の内容を意識して授業ができた
- 話し合いの資料として使用できた
- 個別の指導計画の目標設定に役立った
- その他【自由記述】

B 3. 使用しなかった理由（複数回答可）

- 使い方が分からなかった
- 他に慣れた資料がある
- 自分のやり方で進めた方がわかりやすかった
- 時間的な余裕がなかった
- 活用の必要性を感じなかった
- その他【自由記述】

C. ☆本の活用について

C 1. 音楽の☆本の活用について、該当する項目をチェックしてください

- ☆本を手にとってみた。
- ☆本を授業準備の参考にした。
- ☆本を使って授業で使用した。
- ☆本の教科書解説を参考にした。
- 活用していない（→C2へ）

C 2. 活用していない場合の理由

- 使い方がわからない。
- 内容が児童の実態に合わなかった。
- 他の教材で十分だった。
- CDなどの音源がない。
- その他【自由記述】

C3. どうすれば年間指導計画作成ツールが使いやすいものになりそうですか。

【自由記述】

ご協力ありがとうございました。

最後に、ご意見・ご要望など音楽の授業づくりに関して感じるがありましたら自由にご記入ください。

【自由記述】

【資料 H 学習活動と学習指導要領内容との対応を示した音楽科学習段階表】

音楽科学習段階表 (☆本教科書解説を活用)		具体的な学習活動		該当する☆本の題材		☆共通教材 (必修)		
おんがく ☆☆☆☆	<input type="checkbox"/> 目に描きだすイメージ <input type="checkbox"/> 想像・草率 <input type="checkbox"/> 空想上の存在物をイメージする <input type="checkbox"/> ありかたをイメージする <input type="checkbox"/> ありかたをイメージする	<input type="checkbox"/> 題材のリズム <input type="checkbox"/> 楽器 <input type="checkbox"/> 拍子の速い遅い	<input type="checkbox"/> やわらかい曲 <input type="checkbox"/> 強弱を認識	<input type="checkbox"/> しゃべりかた <input type="checkbox"/> 強弱を認識	<input type="checkbox"/> まっかたな動き <input type="checkbox"/> 強弱を認識	<input type="checkbox"/> しゃべりかた <input type="checkbox"/> 強弱を認識	<input type="checkbox"/> まっかたな動き <input type="checkbox"/> 強弱を認識	
	<input type="checkbox"/> ミュージカル・ストーリーなど場面を覚える <input type="checkbox"/> 身近な人の気持ち・思いの気持ちをイメージする	<input type="checkbox"/> 音の強さや速さ <input type="checkbox"/> プレーメンの音の強さや速さ						
	<input type="checkbox"/> 季節や情景、自然現象をイメージする <input type="checkbox"/> 動物・物をイメージする	<input type="checkbox"/> 動物の音など <input type="checkbox"/> 動物の音など						
(小3段階)	<input type="checkbox"/> 歌詞の言葉やイメージを <input type="checkbox"/> 歌詞と人を知り合わせる <input type="checkbox"/> 風情をイメージする <input type="checkbox"/> 身近な動物の様子、表情をイメージする <input type="checkbox"/> 身近な動物、言葉をイメージする <input type="checkbox"/> 行事や場面の様子、表情をイメージする <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 3拍子 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱
おんがく ☆☆☆☆	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
(小2段階)	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
おんがく ☆☆☆☆	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
(小1段階)	<input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ <input type="checkbox"/> 歌詞の内容に興味・関心を持つ	<input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱 <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符の強弱						
キーワードと学習指導要領との主な関係	歌唱表現 (曲想) <A表現 ア (イ) ④ (イ) ④>	リズム・速度・拍・音の重なり・一緒に <A表現 ア (イ) ④ (イ) ④> ※音楽を形づくっている要素	歌唱表現 (曲想) <A表現 ア (イ) ④ (イ) ④>					

※ただし1段階は「音楽あそび」として器楽や身体表現などとまとめて指導する

※「共通事項」 「内容の取扱いについての配慮事項」 参照

音楽科学学習段階表 (☆本教科書解説を活用)

具体的な学習活動

該当する☆本の題材

<p>おんがく</p>	<p><input type="checkbox"/> 4分音符や8分音符を組み合わせたリズムを作る</p>	<p><input type="checkbox"/> 横々の楽器を組み合わせて合奏する ・いっしょうどうどう <input type="checkbox"/> 鍵盤と打楽器で合奏する ・ちやいろのこびん ・ミッキーマウスマーチ</p>
<p>☆☆☆ (小3段階)</p>	<p><input type="checkbox"/> 色んなリズムを組み合わせる ・わだてこをえんそうしよう <input type="checkbox"/> 何曲のリズム 8分音符 ・あさまでサンバ <input type="checkbox"/> タンゴやチャチャ チャなどのリズム ・しろくまのジャンカ ・おもちやのちやちやちや <input type="checkbox"/> 4分音符と8分音符 で打つ ・ぶんぶんぶん ・やまのおんがくか <input type="checkbox"/> 4拍子の一拍目を 打つ ・かねがなる <input type="checkbox"/> 「タンゴ」のリズムで打つ 拍打ちや選打をする ・いろいろなたがっさ</p>	<p><input type="checkbox"/> 有音程楽器で合奏する ・オーラリー <input type="checkbox"/> 鍵盤楽器で合奏する ・かえるのがっしょう ・まらきらぼし <input type="checkbox"/> リズム譜を見ながら 曲に合わせて演奏する ・むらまつり <input type="checkbox"/> リズム譜を見ながら 打楽器をならす ・もちつき <input type="checkbox"/> 「ドレミ」をならす (音程の順次) ・まほうのど ・どれみであいさつ <input type="checkbox"/> 曲に合わせて 1、2音ならす ・ゆきのおどり ・あまたれ <input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら 2音ならす ・おせんべいやけたかな <input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら ドをならす ・まほうのど</p>
<p>おんがく</p>	<p><input type="checkbox"/> 声やよびかけに 合わせてならす ・はなび ・がっさをならそう <input type="checkbox"/> 楽器をならす・止める ・すずのきよく <input type="checkbox"/> リズム・拍・速度 <A表現 イ(イ)④> <共通事項 ア> ※音楽を形づくっている要素</p>	<p><input type="checkbox"/> 有音程楽器を演奏する ・かえるのがっしょう ・まらきらぼし <input type="checkbox"/> 友達と分組して演奏する ・あやちやちやは すばらしい <input type="checkbox"/> 友達と交互に演奏する ・かえるのがっしょう <input type="checkbox"/> 「ドレミ」をならす (音程の順次) ・まほうのど ・どれみであいさつ <input type="checkbox"/> 曲に合わせて 1、2音ならす ・ゆきのおどり ・あまたれ <input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら 2音ならす ・おせんべいやけたかな <input type="checkbox"/> 絵譜を見ながら ドをならす ・まほうのど</p>
<p>おんがく</p>	<p><input type="checkbox"/> いろいろな楽器をならす ・かへい ・たふりん ・おおきなたいこ <input type="checkbox"/> 楽器が演奏している中 でならす ・まじっくまんぼ</p>	<p><input type="checkbox"/> いろいろな楽器をならす ・かへい ・たふりん ・おおきなたいこ ・まじっくまんぼ <input type="checkbox"/> いろいろな楽器をならす ・かへい ・たふりん ・おおきなたいこ ・まじっくまんぼ <input type="checkbox"/> いろいろな楽器をならす ・かへい ・たふりん ・おおきなたいこ ・まじっくまんぼ <input type="checkbox"/> いろいろな楽器をならす ・かへい ・たふりん ・おおきなたいこ ・まじっくまんぼ</p>
<p>☆☆☆ (小1段階)</p>	<p>楽譜を読む・模倣でならす <A表現 イ(ウ)④> <共通事項 イ></p>	<p>楽器をならす <A表現 イ(ウ)④> 一緒に演奏する <A表現 イ(ウ)④></p>

〇<器楽編>

※ただし1段階は「音楽あそび」として歌唱や身体表現などとまとめて指導する

※「共通事項」「内容の取扱いについての配慮事項」参照

音楽科学習段階表（☆本教科書解説を活用）

		具体的な学習活動	該当する☆本の題材
おんがく ☆☆☆ (小3段階)	<input type="checkbox"/> 指定された音や楽器を組み合わせる	・あめのおんがくをつくろう	<input type="checkbox"/> 物の名前をリズムであらわす ・がっきでおはなしよう
	<input type="checkbox"/> 自然音や手作り楽器などで表現する	・いろいろなおと	<input type="checkbox"/> 動物の声などから楽器を選んであらわす ・むしのがっそうたい
	<input type="checkbox"/> 曲の速さや強弱を変えて表現する	・あめのおとをならしてみよう	<input type="checkbox"/> 歌詞の言葉から楽器を自由に選んであらわす ・たたたんびよん
おんがく ☆☆☆ (小2段階)	<input type="checkbox"/> 自然音や手作り楽器などで表現する	・いろいろなおと	<input type="checkbox"/> 特徴的な音階やリズムパターンで曲をつくる。 ・りずむをくみあわせよう
	<input type="checkbox"/> 曲の速さや強弱を変えて表現する	・あめのおとをならしてみよう	<input type="checkbox"/> リズムパターンを考える ・みんなですらすらすのうた
	声や音をつなげる <A表現 ウ 音楽づくり (イ) ㊦ (ウ) ㊧>		一緒につくる <A表現 ウ 音楽づくり (イ) ㊦ (ウ) ㊧>
キーワードと学習指導要領との主な関係		音楽をつくることに思いを持つ <A表現 ウ 音楽づくり (ア) ㊦㊧>	
<h2>○<音楽づくり編></h2>			

音楽科学習段階表（☆本教科書解説を活用）

□ 具体的な学習活動

該当する☆本の題材

おんがく ☆☆☆ (小3段階)	<input type="checkbox"/> 速度を変えたり強弱を付けたりして歌唱する <ul style="list-style-type: none"> ・おしくらまんじゅう 	<input type="checkbox"/> 相手の動きを認識して体を動かす <ul style="list-style-type: none"> ・おちやらかしはい 	<input type="checkbox"/> 動物の動きや様子を話し合って表現する <ul style="list-style-type: none"> ・とんぼ ・あらうま 	
	<input type="checkbox"/> 3拍子など拍を感じ取りながら表現する <ul style="list-style-type: none"> ・だいくのきつぎせん ・やまごやいっけん ・たのしいな 	<input type="checkbox"/> 友達同士でストーリーや動きを考えて発表する <ul style="list-style-type: none"> ・やまごやいっけん 	<input type="checkbox"/> 歌詞の言葉に合わせた動作振り付けで表現する <ul style="list-style-type: none"> ・テルテルポーンズ 	<input type="checkbox"/> 様々な理の順りを表現する <ul style="list-style-type: none"> ・だ・る・まさんがおどった
おんがく ☆☆ (小2段階)	<input type="checkbox"/> 歌詞に応じた動きをする <ul style="list-style-type: none"> ・じゃんけんぼん 	<input type="checkbox"/> リズムや強弱、掛け声、音の変化に合わせて表現する <ul style="list-style-type: none"> ・かもつれっしや ・じふつとこーずたー ・よーいやさ 		
	<input type="checkbox"/> 歌詞を身振りや歌で表現する <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ 	<input type="checkbox"/> 音の高さを意識した動きをする <ul style="list-style-type: none"> ・どれみのうた 		
おんがく ☆ (小1段階)	<input type="checkbox"/> 歌詞の言葉に合わせて手拍子動かす <ul style="list-style-type: none"> ・ながぐつまーち ・ふりふりだんす ・ちえちえちえこり 	<input type="checkbox"/> リズムやフレーズに合わせる <ul style="list-style-type: none"> ・やきいもぐーちーばー ・おんまはみんな 	<input type="checkbox"/> 教師や友達と一緒に体を動かす <ul style="list-style-type: none"> ・いっぽんぼしごちまごちま ・えびかにくす 	<input type="checkbox"/> 動物の動きを表現する <ul style="list-style-type: none"> ・どうぶつになって
	<input type="checkbox"/> 色々な部位を動かす <ul style="list-style-type: none"> ・ぼんだ・うきぎ・こあら ・まるいたまご ・くまさんくまさん ・ほらべこあおむし 	<input type="checkbox"/> テンポに合わせて踊りをつける <ul style="list-style-type: none"> ・せんたく ・きのこ 	<input type="checkbox"/> 一対一の関係から小さな集団へ広げる <ul style="list-style-type: none"> ・さあ みんなで 	<input type="checkbox"/> 擬音語・擬態語を表現する <ul style="list-style-type: none"> ・ぶーでちやっぶん
おんがく ☆ (小1段階)	<input type="checkbox"/> 手など簡単な振り付けの模倣をする <ul style="list-style-type: none"> ・おやつたーべよ ・おべんどう ・むすんでひらいて ・びすけつとをやましよう ・ばんやさんにおかいもの 	<input type="checkbox"/> 3拍子で動かす <ul style="list-style-type: none"> ・ながぐつまーち ・かたつむり 	<input type="checkbox"/> 友達と一緒に体を動かす <ul style="list-style-type: none"> ・てをつなごう ・ぼすごっこ ・ちいさいうみ おおきいうみ 	<input type="checkbox"/> 自由に自然を表現 <ul style="list-style-type: none"> ・ちいさいうみ おおきいうみ (海など)
	<input type="checkbox"/> 手など簡単な振り付けの模倣をする <ul style="list-style-type: none"> ・おやつたーべよ ・おべんどう ・むすんでひらいて ・びすけつとをやましよう ・ばんやさんにおかいもの 	<input type="checkbox"/> リズムに合わせて踊る <ul style="list-style-type: none"> ・おんま・かた・ひざ・ぼん 	<input type="checkbox"/> 音や歌に支付く <ul style="list-style-type: none"> ・さまならあしたもね ・あ・い・う・え・おー ・ゆらゆらぼーと 	<input type="checkbox"/> 動物の動きを表現 <ul style="list-style-type: none"> ・おうま ・はたけのぼるか ・ぞうさん
キーワードと学習指導要領との主な関係	体を動かす <A表現 Ⅰ(ウ)㉔>	リズム・拍・速度・フレーズ <A表現 Ⅰ(イ)㉔①> ※音楽を形づくっている要素	一緒に表現 <A表現 Ⅰ(ウ)㉔>	何を表現するか <A表現 Ⅰ(ウ)㉔①>

〇<<身体表現編>>

※ただし1段階は「音楽あそび」として歌唱や器楽などとまとめて指導する

音楽科学習段階表（☆本教科書解説を活用）

具体的な学習活動

該当する☆本の題材

おんがく ☆☆☆ (小3段階)	<input type="checkbox"/> リズムやテンポの違いを伝え合う <input type="checkbox"/> シンコペーションを感じる <input type="checkbox"/> 3拍子に慣れ親しむ	<input type="checkbox"/> オーバーザインボー <input type="checkbox"/> ゴリウォークのケークウォーク <input type="checkbox"/> シンコペーテッドクロック <input type="checkbox"/> おどろうたのしいボーレチケ	<input type="checkbox"/> 楽器の特徴について職員を出し合う <input type="checkbox"/> シンコペーテッドクロック <input type="checkbox"/> いろいろな楽器とそれぞれの役割がわかる <input type="checkbox"/> 楽器の音色を楽しむ <input type="checkbox"/> くりねつとぼるか <input type="checkbox"/> はくちょう <input type="checkbox"/> コード進行がわかる <input type="checkbox"/> ふしぎなつきよのおんがくかい <input type="checkbox"/> 楽器の変化がわかる <input type="checkbox"/> 音の強弱がわかる	<input type="checkbox"/> 人の気持ちについて考える <input type="checkbox"/> ゴリウォークのケークウォーク <input type="checkbox"/> 動物などの細かい動きを想像する <input type="checkbox"/> こいぬのワルツ <input type="checkbox"/> メッセージを感じる <input type="checkbox"/> ほしにねがいを
	<input type="checkbox"/> ボリカや民族音楽などいろいろなリズムを感じる <input type="checkbox"/> 3拍子のリズムで動く <input type="checkbox"/> 振り子のリズムで動く	<input type="checkbox"/> くりねつとぼるか <input type="checkbox"/> あかさすんどいち <input type="checkbox"/> すけーたーずわつ <input type="checkbox"/> おおきなふんどけい	<input type="checkbox"/> こぞうのこうしん <input type="checkbox"/> すけーたーずわつ <input type="checkbox"/> はくちょう <input type="checkbox"/> 情景を感じる <input type="checkbox"/> あめふりすいぞくかん <input type="checkbox"/> おおきなかぶ <input type="checkbox"/> おおきなふんどけい <input type="checkbox"/> あめふりくまのこ	<input type="checkbox"/> こぞうのこうしん <input type="checkbox"/> すけーたーずわつ <input type="checkbox"/> はくちょう <input type="checkbox"/> 人や動物の動きを感じる <input type="checkbox"/> 情景を感じる <input type="checkbox"/> あめふりすいぞくかん <input type="checkbox"/> おおきなかぶ <input type="checkbox"/> おおきなふんどけい <input type="checkbox"/> あめふりくまのこ
	<input type="checkbox"/> 3拍子を感じる <input type="checkbox"/> 2拍子（行進）を感じる <input type="checkbox"/> 速度の違いを感じる	<input type="checkbox"/> おどるこねこ <input type="checkbox"/> すてきなぼうしやさん <input type="checkbox"/> おもちゃのへいたい <input type="checkbox"/> はたらくくるま <input type="checkbox"/> だるまさん	<input type="checkbox"/> 絵本・パネルシアター・お話を通し、ストーリーのある曲の違いを感じる <input type="checkbox"/> （セリフなどを含む） <input type="checkbox"/> はたらくくるま <input type="checkbox"/> ちゅうりつぷ <input type="checkbox"/> こりのうた <input type="checkbox"/> 音を感じる	<input type="checkbox"/> すてきなぼうしやさん <input type="checkbox"/> 3ひきやぎのがらがらどんどん <input type="checkbox"/> まじよのたつきゆうびん
キーワードと学習指導要領との主な関係	リズム・速度・拍 <B鑑賞 ア(イ)> ※音楽を形づくっている要素	音色・旋律・強弱・和音 <B鑑賞 ア(イ)> ※音楽を形づくっている要素	曲想を感じ取る <B鑑賞 ア(ア)> <共通事項 ア>	

〇<<鑑賞編>>

※「共通事項」「内容の取扱いについての配慮事項」参照

謝辞

本研究を行うにあたり、研究の機会を与えてくださり、研究助成を賜りました公益財団法人みずほ教育福祉財団に心より御礼申し上げます。あわせて、本研究を特別支援教育研究助成論文として御推薦いただきました独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の皆様に、深く感謝申し上げます。

昨年度、私は令和6年度特別研究員（地域連携型）として、同研究所に一年間派遣していただきました。派遣にあたり、多大なるご高配を賜りました静岡県教育委員会ならびに、同研究所への派遣について快くご理解とご判断をいただきました前校長 赤澤智子先生、そして研究活動の場を提供して下さった研究所の皆様に厚く御礼申し上げます。

同研究所では、特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究（教育課程チーム）に所属し、研究および研修を通して特別支援教育の先進的な実践や多様な視点に触れる貴重な機会を得ることができました。本研究を進めるにあたり、数多くのご示唆とご助言を賜りました丹野哲也先生、ならびに研究チーム代表としてご指導いただきました武富博文先生をはじめ、教育課程チームの先生方を中心とした研究所の諸先生方に心より感謝申し上げます。

また、東京福祉大学の工藤傑史先生には、文部科学省著作教科書（☆本）に関する制作の背景や意図についてご教示いただくとともに、関連する資料の提供を賜りました。さらに本校において、音楽科の学習指導要領および☆本に関する講演会ならびに研修会を実施していただき、本研究を進める上で重要な示唆をいただきました。ここに記して深く感謝申し上げます。

本研究を進めるにあたり、所属校である静岡県立掛川特別支援学校の山崎かおる校長先生をはじめ、昨年度よりご協力いただいた副校長柴田潤二先生、小学部主事梅原隆史先生、ならびに多くの教職員の皆様から温かいご理解とご支援を賜りました。質問紙調査やツールの作成にご協力いただいた小学部教職員、図書表現課の皆様に改めて深く感謝申し上げます。